

I. 平成25年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当：堀江 良典、大内 啓子}

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成25年4月1日	平成26年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,613	1,569	77	121

会員資格
変更

正会員：	1,537	1,496	57	103	-46	5
準会員：	76	73	20	18	+2	-5

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成25年4月1日	平成26年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ()：支部間 の移動
北 海 道	44	38	0	6	-6(0)
東 北	58	58	2	2	0(0)
関 東	893	864	36	61	-25(-4)
東 海	150	139	6	17	-11(0)
関 西	267	267	21	22	-1(+1)
中国・四国	119	112	8	9	-1(-6)
九州・沖縄	77	82	3	4	-1(+6)
国 外	5	9	1	0	+1(+3)
賛 助 会 員	33社 34口	33社 34口	1社 1口	1社 1口	0社 0口

2. 事業報告

{総務担当：堀江 良典、大内 啓子}

平成25年度は、一般社団法人日本人間工学会第3期（平成24年6月～26年6月）の2年目として前年度に引き続き従来の活動を集約発展させた。特に研究活動の倫理観に対する社会の要求に応えるために、常設委員会の学術担当により、日本人間工学会に相応しい活動に関する行動指針などを検討・公示した。日本人間工学会は1963年12月に設立総会及び第1回研究会を開催しており、2013年12月に設立50周年を迎えた。これを受けて臨時委員会として50周年準備委員会を設置した。また、子どものICT機器活用が広まる現状に鑑み、小中学校等におけるICT機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会を設置した。第4期代議員および役員選挙のために選挙管理委員会を設置し、実施した。

- (1) 平成25年定時社員総会を平成25年6月1日に日本大学生産工学部において開催し、平成24年度事業報告・収支決算、平成25年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 第54回大会を堀江良典大会長のもと、平成25年6月1～2日に日本大学生産工学部津田沼キャンパスで開催し、学会企画シンポジウム「様々な領域で活用される人間工学」を企画した。また、第55回大会（学会設立50周年記念大会）を川野常夫大会長のもと平成26年6月5日～6日に神戸コンベンションセンター「神戸国際会議場」にて開催することを決定した。
- (3) 安全人間工学研究部会と共催にて公開講座「シリアスゲームの構築法と医療安全等への応用」を2月26日に開催した。
- (4) 機関誌「人間工学」の第49巻2～6号及び第50巻1号の計6冊を発行した。他学会の著作権を侵害した論文3件を取消した。
- (5) 理事会を平成25年4月23日、5月31日、6月9日、10月15日、平成26年2月25日の計5回開催した。
- (6) 平成25年度日本人間工学会功労賞(3名)、論文賞(1件)、研究奨励賞(2件)、人間工学グッドプラクティス賞(2件)、優秀研究発表奨励賞(2件)の表彰を行った。掲載論文取消により平成20年度研究奨励賞1件を取消した。
- (7) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者5名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B方式試験)合格者4名、準専門家合格者9名、アシスタント合格者1名を新たに得た。その結果、平成25年度末現在の認定人間工学専門家は181名、準専門家97名、アシスタント14名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナーを開催し、会報を4回発行した。
- (8) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

8-1) 広報委員会

理事会、支部、委員会、研究部会、認定機構などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。

8-2) 編集委員会

学会誌の定期発行と内容の充実、編集委員会の開催、委員会HPの更新、投稿規程改定のほか、学会設立50周年記念企画、クイック・レビュー(QR)制度、倫理的配慮・著作権・利益相反、電子査読管理システムの構築などの課題について対応した。なお、本年度は投稿論文50編を受け付け、年度内に査読を終了した論文は59編、うち採択されたのは28編(採択率47%)で、平均査読期間(全投稿区分の投稿受付日から採択日までの日数)は、採択論文で133日、不採択論文で89日であった。

8-3) 国際協力委員会

第15回日韓ジョイントシンポジウム(6月1日、日本大学)を開催。ACED第2回大会(2017年予定)の開催地を日本で行うことを決定。IEA理事会:パリ(8月26日～27日)に小谷委員長、鳥居塚副委員長、鈴木委員ならびに藤田IEA副会長、河合IEAウェブサイトプロジェクト担当委員が出席。

8-4) ISO/TC159国内対策委員会

FDIS、DIS等の規格原案に関する計47件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し(全体会議4回、分科会25回)審議を行った。また、国際会議出席(21回、のべ56名出席)などによって2件の新ISO規格の発行に寄与した。

8-5) 表彰委員会

平成25年度功労賞、日本人間工学会論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、優秀研究発表奨励

賞の授与式を行った。平成26年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。また各表彰制度の運営における標準化をはかった。

8-6)安全人間工学委員会

社会への情報発信、他学会とのリエゾン、日本人間工学会大会と安全工学シンポジウムでのシンポジウムを企画・運営した。また、日本人間工学会本部主催の公開講座、および、安全人間工学研究部会が主催・共催する研究会の企画・立案・実施をサポートした。

8-7)学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。日本人間工学会に相応しい活動に関する行動指針等を検討し、学会誌等により公告した。

8-8)企画担当

第54回大会において学会企画シンポジウム「様々な領域で活用される人間工学」、安全人間工学研究部会と共催で公開講座「シリアスゲームの構築法と医療安全等への応用」を開催した。

8-9)小中学校等におけるICT機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会

子どものICT機器活用を巡る人間工学上の課題等について検討するため、委員会（略称は、子どものICT活用委員会）を設置し、活動を開始した。子どものICT機器活用の課題について各種の情報共有を進めている。

8-10) 50周年準備委員会

日本人間工学会は、2013年12月に設立50周年を迎えた。50周年記念事業等の企画化には、2013年6月発行の「人間工学」49巻3号で公告し、会員等からアイデアを募集するとともに、理事会等で審議を重ねた。50周年事業の期間は2013年12月～2014年12月の一年間であるが、50周年を契機に新たな活動として継続する事業計画も対象としている。

8-11)IEA担当

IEA担当（IEA財務担当副会長）業務を遂行した。また、8月に新しいIEAウェブサイトを開発した。

8-12)学会組織検討委員会

前年度に理事の連続任期を2期4年に制限することを決定したことを受けて、学会活動のさらなる活性化をめざした学会組織のあり方について検討した。

8-13) ウェブアクセシビリティ支援委員会

リニューアルしたIEAウェブサイトの一般公開を行った。IEAとウェブサイトの所有権と使用権などについての覚書の締結を行った。

8-14)選挙管理委員会

第4期(平成26～27年度)の代議員および役員選挙を滞りなく実施した。

8-15)第54回大会担当

第54回大会（堀江良典大会長・日本大学生産工学部）を6月1～2日に開催し、特別講演、海外招待講演、学会企画シンポジウムを含む9件のシンポジウム、163件の一般発表、機器展示、懇親会等を行い約550名の参加者を得て盛会であった。同時に第15回日韓共同シンポジウムが併催され、36件の発表があった。

(9)支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、システム大会部会の計14研究部会が、多彩な活動を行った。

(10)関連学術団体等と、49件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(11)学会事務局では、JENC事務局業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、学会誌や大会講演集のJ-Stageへの公開を進め、学会HPにおいても迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：松田 文子}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、認定機構などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。
- (2) グッドプラクティスデータベース（GPDB）の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努めた（平成25年度新規登録件数7件）。表彰委員会・人間工学専門家認定機構と連携し、「専門家100名が選んだ人間工学GP賞」の投票フォームを整備するなど、技術的な支援を行った。
- (3) HPのスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営（取材・記事制作・HP掲載）を行った（新規記事として2件掲載）。
- (4) 編集委員会と連携を図り、投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備に必要な電子査読システムの開発を技術面から支援した。
- (5) 国内外からの広報関連の問い合わせ対応（e-mail）を行った。
- (6) 学会ドメインによるURL運用を希望する各支部・委員会・研究部会にドメインを提供、またメーリングリストの整備・提供を行った。
- (7) 50周年記念企画への対応要請を受け、「人間工学博物館（バーチャルミュージアム）」の実現に向け、検討を開始した。
- (8) 産業保健スタッフに対する人間工学の普及をはかるため、産業医学ジャーナル（産業医学振興財団）へ人間工学講座の特集記事の連載企画を提案した。H26.5月号～H27.3月号の計6巻に連載が決定、広報委員を中心に分担執筆することが決まった。
- (9) 重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をHPにて迅速に情報発信を行った。

3-2. 編集委員会

{委員長：大須賀 美恵子、副委員長：榎原 毅}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 平成25年04月：第49巻2号（pp. 43-92）：原著3編，短報1編，技術報告1件 他
 - 2) 平成25年06月：第49巻3号（pp. 93-160）：総説1編，原著3編 他
 - 3) 平成25年08月：第49巻4号（pp. 161-202）：原著1編，短報1編，資料2編 他
 - 4) 平成25年10月：第49巻5号（pp. 203-252）：原著5編 他
 - 5) 平成25年12月：第49巻6号（pp. 253-306）：総説1編，原著4編 他
 - 6) 平成26年02月：第50巻1号（pp. 1-60）：総説3編，原著2編，短報1編 他
- (2) 学会設立50周年記念企画
学会設立50周年の節目にあたり、座談会、業界・分野別人間工学の紹介、人間工学国際規格の紹介を企画し、第50巻1号より掲載を開始した。その他、人間工学方法論（測定法）の解説や他委員会、部会との連携企画の準備を進めた。
- (3) クイック・レビュー(QR)制度
論文投稿の推進と投稿者の利便性を高めるため、大会と連動したクイック・レビュー制度を実践し、一定の成果を得た。さらに、次大会に向けて、制度を微修正し周知を図った。
- (4) 倫理的配慮、著作権、利益相反
査読を通して倫理的配慮の啓発を行った。学術担当と連携して、投稿論文の著作権移譲手続きの見直しをし、著作権規程の改訂に協力した。また、投稿論文に利益相反に関する記載を義務付け、投稿規程に盛り込むこととした。
- (5) 電子査読管理システムの構築

投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、電子査読管理システムを構築し、試行に着手した。

(6) 編集委員会（対面による全体会議）を7月名古屋、9月東京、11月大阪、3月名古屋の計4回開催した。東京・大阪の拠点を結んだweb会議による編集委員会を2回(5月、1月)開催した。これらの委員会には、個人単位のweb参加も可能とし、委員の利便性向上と委員会の活性化に寄与した。その他、隔月でメーリングリストを活用した電子編集委員会を計6回開催した。

(7) 投稿論文数・採択率・査読期間

前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。

平成25年度に受け付けた投稿論文は50編（原著36編、総説8編、短報4編、資料2編、QR制度利用含む）で、採否が判定された投稿論文は全59編（採択全28編、不採択全31編）、取下げが5編。採択率は47%であった。

平成25年度に受け付けた投稿論文全50編のうち、年度内に査読者が決定した論文(50編)を査読した延べ人数は144名（うち非会員者9名）であった。また、平成25年度の平均査読期間（全投稿区分の投稿受付日から採択日までの日数）は、採択論文で133日、不採択論文では89日であった。

(8) その他、投稿規程の改定（2013年4月23日）など、編集委員会所掌業務に対応した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

(1) 委員会開催

委員会全体会合を開催（2013. 11. 14）。その他E-mailによる緊密な連絡を実施

(2) 理事会審議・報告

学会設立50周年企画案について、Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED)、アジアにおける人間工学関連の国際会議の設立に関して報告、IEA理事会参加報告、日韓共同シンポジウムの開催に関する報告、IEAによる人間工学定義の日本語訳の提案についてなど

(3) 国際交流

・第15回日韓ジョイント・シンポジウム、日本大学：平成25年6月1日

日本7件、韓国29件、計36件の演題が発表

・ACED第1回大会（2014. 5. 21-24）において青木理事長による講演、国際協力委員会による特別セッション（「アジアにおける人間工学的課題」）開催企画

・ACED第2回大会(2017年予定)の開催地を日本で行うことを決定。

・IEA理事会：パリ：平成25年8月26日～27日

小谷委員長、鳥居塚副委員長、鈴木委員ならびに藤田IEA副会長、河合IEAウェブサイトプロジェクト担当委員が出席し、JESの協力による新しいウェブサイトの公開、IEA2015(メルボルン)についての準備状況、IEAの名称としてHuman Factorsを含めるかの議論などが行われた。

(4) 国際活動関連記事

第49巻4号 第15回日韓共同シンポジウム開催報告(金相賢、小谷賢太郎)

第49巻5号 2013IEA Council Meeting参加報告(鈴木桂輔、鳥居塚崇、小谷賢太郎)

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志、副委員長：吉武 良治}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

・国内委員会：全体会議4回、分科会25回（メール審議含む）

・国際会議出席状況：21回の国際会議に延べ56名出席

(2) 発行規格、投票

〈新 ISO 規格〉:2 件

- ・ ISO/TR 12295:2014 Ergonomics — Application document for International Standards on manual handling (ISO 11228-1, ISO 11228-2 and ISO 11228-3) and evaluation of static working postures (ISO 11226)
- ・ ISO/TS 20282-2:2013 Usability of consumer products and products for public use — Part 2: Summative test method

〈投票〉: FDIS 1 件、DIS 2 件、CD 6 件、DTS 1 件、SR 20 件、NWIP 6 件、その他 11 件

(3) 分科会活動

- | | | |
|--------------------------------|----------|------------|
| ・ SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査: 青木和夫 | 分科会 4 回開催 |
| ・ SC3(人体寸法と生体力学) &WG | 主査: 横井孝志 | 分科会 5 回開催 |
| ・ SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG | 主査: 山本 栄 | 分科会 10 回開催 |
| ・ SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG | 主査: 栃原 裕 | 分科会 6 回開催 |
| ・ アクセシブルデザイン関連会議 | 主査: 青木和夫 | 分科会 4 回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長: 阿久津 正大、副委員長: 矢口 博之}

(1) 委員会開催状況

委員会を 4 月 8 日(電子メール委員会)、6 月 1 日、8 月 28 日、2 月 19 日に開催した。そのほか随時電子メールで討議を進め、下記について活動を行った。

(2) 活動内容

1) 各表彰制度の運営における標準化をはかった。

2) 日本人間工学会功労賞について

- ・ 平成 25 年定時社員総会において平成 25 年度「日本人間工学会功労賞」の受賞者に対する授与式を行った。功労受賞者は岸田孝弥氏、斉藤 進氏、八田一利氏であった。また平成 26 年度「日本人間工学会功労賞」の受賞候補者の選考を行い、結果(該当者なし)を理事会に上申した。

3) 日本人間工学会論文賞について

- ・ 平成 25 年定時社員総会において、平成 25 年度日本人間工学会論文賞の授与式を行った。受賞論文は、「スリッパの着用が歩容に与える影響(筆頭著者: 齋藤誠二氏、共著者: 田中翔子氏、松本和也氏)」であった。
- ・ 平成 26 年度日本人間工学会論文賞について受賞候補論文の選考と表彰の準備を行った。

4) 日本人間工学会研究奨励賞について

- ・ 平成 25 年定時社員総会において、平成 25 年度研究奨励賞の授与式を行った。受賞論文は、「作業条件がコミュニケーションエラーの発生に及ぼす影響(筆頭著者: 高橋明子氏、共著者: 島崎 敢氏、石田敏郎氏)」と「筋電図と関節角度に基づく作業負担の総合評価法に関する基礎的検討(筆頭著者: 茅原崇徳氏、共著者: 肥田拓哉氏、南博貴氏、瀬尾明彦氏)」であった。
- ・ 平成 26 年度研究奨励賞について受賞候補論文の選考と表彰の準備を行った。

5) 人間工学グッドプラクティス賞について(広報委員会との連携事業)

- ・ 平成 25 年定時社員総会において、平成 25 年度「人間工学グッドプラクティス賞」の授与式を行った。受賞案件は、優秀賞 2 件: 「薄型テレビの人間工学設計ガイドライン(薄型テレビの視聴に関する人間工学ガイドライン検討委員会)」、「産・学・研協同による高齢者・車椅子利用者向けの在宅用運動機器の開発(有限会社京和工業、静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会)」であった。
- ・ 平成 26 年度(第 3 回)受賞候補案件の選考と表彰の準備を行った。

6) 日本人間工学会優秀研究発表奨励賞について

- ・ 第 54 回大会において平成 25 年度優秀研究発表奨励賞の受賞者を選考し、理事会に上申した。また同賞受賞者 2 名に賞状を授与した。
- ・ 第 55 回大会での研究発表者が受賞対象となる平成 26 年度優秀研究発表奨励賞の広報と選考準備を行った。

7) 日韓シンポジウム功労者表彰について

- ・日韓シンポジウムの功労者表彰における ESK 側功労者を取りまとめ、理事会に上申した。また第 54 回大会において ESK 側功労者 Jong Yong KIM 氏 (ESK 会長)、Kwan Suk LEE 氏 (ESK 顧問)、Sung Ho HAN 氏 (ESK 副会長) を表彰した。
- 8) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼について対応した。また国際協力委員会と表彰委員会の合同 WG を立ち上げ、本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動及び本学会が候補者を積極的に推薦できる仕組みについて検討した。
- 9) 表彰委員会 HP の開設準備、および次期表彰委員会に引き継ぐための表彰委員会資料等の整備を進めた。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1) 青木 (日大)・小松原 (早大)・佐相 (電力中央研究所)・首藤 (社会安全研究所)・中西 (慶應義塾大)・芳賀 (立教大)・酒井 (労働科学研究所) の 7 人の委員で活動した。
- (2) 安全工学シンポジウム 2013 の運営委員として佐相委員がシンポジウムの運営に協力した。
- (3) 日本人間工学会第 54 回大会におけるシンポジウム「個人と組織のレジリエンスを高める」を安全人間工学研究部会とともに企画した。
- (4) 日本人間工学会本部主催の公開講座、および、安全人間工学研究部会が主催・共催する研究会の企画・立案・実施をサポートした。

3-7. 学術担当

{担当：斉藤 進、青木 和夫}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

また、過去の学会誌に掲載された複数の論文に関する疑義に関係し、編集委員会及び広報委員会等と協力して調査活動を行った。さらに、学会員が適切な研究活動を行うための行動規範を策定するため、学術担当に「行動規範ガイドライン分科会」を新たに設置し、日本人間工学会に相応しい活動に関する行動指針を検討した。これらの調査結果を理事会へ報告するとともに、学会誌等により以下を公告した。

- (1) 学会誌掲載論文に関する疑義に対する調査結果報告 (2013 年 4 月 23 日開催の第 20 回理事会)
- (2) 研究活動における不正行為等の防止と公正な学術活動に向けて (人間工学 49(3), 95-99, 2013)
- (3) 本学会著作物等の著作権が譲渡される時点の明確化と著作権規程の改訂 (人間工学 49(3), 100-102, 2013)
- (4) 一般社団法人日本人間工学会 人間工学者の行動規範 (人間工学 49(6), *i-ii*, 2013)

3-8. 企画担当

{担当：河合 隆史、青木 和夫}

- (1) 日本人間工学会 第 54 回大会 (2013 年 6 月 1~2 日：日本大学生産工学部) において学会企画シンポジウム「様々な領域で活用される人間工学」を開催した。
- (2) 公開講座として、安全人間工学研究部会と共催で「シリアスゲームの構築法と医療安全等への応用 (日本大学生産工学部教授古市昌一氏)」を 2014 年 2 月 26 日に立教大学池袋キャンパスにて開催した。

3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：吉武 良治 副機構長：福住 伸一}

(1) 会員状況 (2014年3月31日現在)

人間工学専門家 181名 (H25年度 資格取得者9名、退会者6名)

人間工学準専門家 97名 (H25年度 資格取得者11名、退会者11名)

人間工学アシスタント 14名 (H25年度 資格取得者1名)

(2) 資格認定試験実施状況

資格認定試験 (A方式試験) を1回実施、受験7名、合格5名であった。また、筆記試験免除条項の適用 (B方式試験) を1回実施、受験4名、合格4名。準専門家に応募10名、書類審査に9名が合格。アシスタントに応募11名、書類審査に1名が合格。

(3) 定期総会・講演会の開催

講演会 日時：2013年4月26日(金) 14:00~15:50

講演：岡田 衛 (レノボジャパン (株))

演題：ノートブック/タブレットPC開発のユーザー調査について

講演：森口喜代 (キヤノン (株)) 演題：キヤノンにおける人間工学の取り組み

総会 日時：2013年4月26日(金) 16:00~17:00 (総会后、交流会を開催)

出席者：36名、委任状：82名

(4) 幹事会の開催

第30回 日時：2013年9月19日(木) 16:30~18:00 場所：芝浦工業大学 芝浦キャンパス

第31回 日時：2014年3月18日(火) 17:00~19:00 場所：芝浦工業大学 芝浦キャンパス

(5) 再認定の実施

人間工学専門家103名、人間工学準専門家4名の再認定手続きが完了した。

(6) シンポジウムの開催

下記2つの大会にて認定機構にてシンポジウムを主催した。

1. 日本人間工学会第54回大会 (2013/6/1、千葉) 「人間工学専門家への期待」

2. 日本人間工学会第43回関東支部大会 (2013/12/7) 「人間工学専門家の活動紹介」

(7) CPE セミナーの開催

日時：2013年11月20日(水) 10:00-12:00

会場：(独)産業技術総合研究所 デジタルヒューマン工学研究センター

(8) 会報作成

会報を4回発行した。

(9) 人間工学グッドプラクティス (GP) 賞

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6月の大会にて第二回の表彰を行った。

(10) 人間工学グッドプラクティス (GP) 賞受賞事例の紹介記事連載

平成24年度人間工学GP賞受賞事例の紹介を学会誌「人間工学」に連載した。

49巻2号 連載の紹介、優秀賞 [カシコチェア]

49巻3号 最優秀賞 [鉄道車両用円弧状手すり]、優秀賞 [学びデスク&成長チェア]

49巻4号 優秀賞 [マンモグラフィ 乳房X線撮影装置]、優秀賞 [トップNANOX]

[臨時委員会・担当]

3-10. 小中学校等における ICT 機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会

{委員長：斉藤 進}

わが国では、2010年に閣議決定された新成長戦略に沿い、総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部

科学省「学びのイノベーション事業」等、小中学校における ICT 機器の導入と活用が急速に進められている。しかし、学校では、子どもの ICT 機器活用についての人間工学的視点はないままに、児童や生徒一人一台の情報端末や教室への電子黒板等が導入されている現状である。

日本人間工学会では、子どもの ICT 機器活用に関する人間工学を学会として検討するため、2014 年 2 月 25 日に開催された第 23 回理事会において、小中学校等における ICT 機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会（略称は、子どもの ICT 活用委員会）を設置し、活動を開始した。同委員会では、子どもの ICT 機器活用を巡る人間工学上の課題等につき、各種の情報共有を進めているところである。

3-11. 50 周年準備委員会

{担当: 齊藤 進、青木 和夫}

日本人間工学会は、1963 年 12 月に設立総会及び第 1 回研究会を開催しており、2013 年 12 月に設立 50 周年を迎えた。学会では、2013 年度の事業計画として 50 周年準備委員会を設置した。50 周年記念事業等の企画化には、2013 年 6 月発行の「人間工学」49 巻 3 号で公告し、会員等からアイデアを募集するとともに、理事会等で審議を重ねてきた。50 周年事業の期間としては 2013 年 12 月～2014 年 12 月の一年間であるが、50 周年を契機に新たな活動として継続する事業計画も対象としている。以下が、50 周年記念事業として現在の時点で企画されている具体的事例である。

(1) 2014 年 6 月の 50 周年記念大会におけるシンポジウム

1) 人間工学の過去・現在・未来

2) JES の国際貢献とこれからの国際ネットワーク

(2) 学会誌「人間工学」50 巻 1 号（2014 年 2 月発行）～50 巻 6 号（2014 年 12 月発行）に特集記事を掲載

例：座談会－ネットで語る人間工学の来し方行く先（50(1), 1-10, 2014）

(3) データベースの作成

1) 学会事業のアーカイブ化

2) 人間工学バーチャル博物館の設置（グッドプラクティスデータベースの拡充等）

(4) 海外の人間工学専門家の実情把握

例：第 5 回国際応用人間工学会議（AHFE2014）での各国人間工学専門家によるセッション企画

(5) 研究部会の新設

例：ビッグデータ人間工学研究部会

3-12. IEA 担当

{担当: 藤田 祐志、河合 隆史}

(1) IEA 担当（財務担当副会長）業務を遂行した。会費の徴収、EC 会議（4 月英国）、Council 会議（8 月フランス）への参加ほかである。

(2) 8 月に新しい IEA ウェブサイトを公開した。以後、不具合や、コンテンツ更新要請ほか、サイトの運営業務に入った。

3-13. 学会組織検討委員会

{委員長: 酒井 一博、副委員長: 外山みどり、松岡敏生}

前年度に理事の連続任期を 2 期 4 年に制限することを決定したことを受けて、学会活動のさらなる活性化をめざした学会組織のあり方について検討する予定であったが、委員長の事情により実質的な成果をあげることができなかった。

3-14. ウェブアクセシビリティ支援委員会

{委員長：青木 和夫}

- (1) リニューアルしたウェブサイトに必要な修正を行ない、IEA Executive Committee にて確認してもらおうと同時に、IEA の側の原稿提出などを依頼した。
- (2) リニューアルしたウェブサイトの一般公開を行った。
- (3) IEA とウェブサイトの所有権と使用権などについての覚書の締結を行った。

3-15. 選挙管理委員会

{委員長：吉武 良治}

(1) 委員会日程

第4期（平成26年社員総会～28年社員総会）の代議員および役員選挙を以下の日程で実施した。

- ・平成25年10月5日（土）第1回委員会（通信委員会）
選挙規程確認、選挙人名簿および代議員定員数を確認、選挙日程の確認
- ・平成25年10月19日（土）第2回委員会
代議員選挙投票用紙の発送
- ・平成25年11月23日（土）第3回委員会
代議員選挙の開票、代議員当選者へ就任諾否確認書の発送
- ・平成25年12月16日（月）第4回委員会
代議員内定者159名を確認、理事・監事選挙投票用紙の発送
- ・平成26年1月21日（火）第5回委員会
理事・監事選挙の開票、理事・監事当選者へ就任諾否確認書の発送
- ・平成26年2月12日（水）第6回委員会
理事・監事内定者を確認、理事長・副理事長選挙投票用紙の発送
- ・平成26年3月3日（月）第7回委員会
理事長・副理事長選挙の開票、理事長・副理事長当選者へ就任諾否確認書の発送
- ・平成26年3月18日（火）第8回委員会（通信委員会）
理事長・副理事長内定者の確認
- ・平成26年5月13日（火）第24回理事会にて第4期選挙結果の報告

(2) 選挙結果

第4期代議員および役員選挙結果は、本社員総会資料（末頁参照）・第4期代議員および役員選挙報告（案）に掲載するとおりである。

代議員選挙、理事・監事選挙、理事長・副理事長選挙における投票状況は以下のとおりであった。

1) 代議員選挙の投票状況

支部	正会員数	代議員定数	投票数	投票率(%)
北海道	40	5	13	32.5
東北	60	7	15	25.0
関東	945	85	108	12.8
東海	139	15	29	20.9
関西	252	26	54	21.4
中国・四国	111	12	36	32.4
九州・沖縄	81	9	20	24.7
総数	1,528	159	275	18.0

無効票 2（関東）

2) 理事・監事選挙の投票状況

理事定数	代議員数	投票数	投票率(%)
20	159	97	61.0

無効票 0

監事定数	代議員数	投票数	投票率(%)
2	159	97	61.0

無効票 0

3) 理事長・副理事長の投票状況

理事長定数	理事・支部長	投票数	投票率(%)
1	25	21	84.0

無効票 0

副理事長定数	理事・支部長	投票数	投票率(%)
1	25	21	84.0

無効票 0

注)「理事長及び副理事長の選挙は、理事内定者及び支部長内定者による通信選挙」と選挙規程に定められているが、締切日までに1支部(中国・四国支部)のみ支部長内定者の連絡がなかったため、理事長・副理事長選挙の被選挙権者及び選挙権者に含まれていない。

3-16. 第54回大会 担当

{担当:堀江 良典}

2013年6月1日(土)～2日(日)、日本人間工学会第54回大会を日本大学生産工学部津田沼キャンパス(千葉県習志野市)にて開催した。同時に第15回日韓共同シンポジウムが併催された。参加者数は名誉会員3名、正会員237名、学生会員32名、非会員(一般)73名、非会員(学生)67名、賛助会員23名、展示企業関係者40名、日韓シンポジウム参加ESK会員58名、その他15名の合計548名であった。懇親会は大会初日(1日)夜に学生食堂にて開催した。参加人数は韓国、台湾など海外の参加者も含め約200人であった。

大会では、「人間工学の可能性」をコンセプトとして、特別講演、海外招待講演、学会企画シンポジウムを含む9件のシンポジウム、163件の一般発表が行われた。また、日韓共同シンポジウムでは36件の発表があった。

本大会の開催に際しまして、ご尽力をいただきました理事の皆様、演題を寄せられた会員の皆様、賛助金、展示や広告を頂いた企業の皆様に厚く御礼申し上げます。

本大会ならびに日韓共同シンポジウムの開催報告については人間工学49巻4号に掲載されています。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長:横山 真太郎}

(1) 会議

1) 支部役員会 平成25年9月26日(木)

・平成24年度 支部事業報告

・平成24年度 決算報告並びに監査報告

- ・平成25年度 予算案
- ・平成25年度 支部事業計画案
- ・平成25年度 総会について
- ・平成26年度 支部総会並びに大会について
- ・その他

(2) 平成25年度支部総会並びに大会

大会長: 前田 享史(北海道大学)

日時:平成25年11月22日(金) 13:00～

場所: 北海道大学工学部A101室

1) 支部総会議題

- ・平成24年度支部事業報告
- ・平成24年度決算報告並びに監査報告
- ・平成25年度予算案
- ・平成25年度支部事業計画案
- ・平成26年度北海道支部大会開催について

2) 支部大会

4-2. 東北支部

{支部長: 北村 正晴}

(1) 支部役員会

本年度もメール審議を中心に意見集約を行って支部行事の運営を進めた。ただし下記の一件は通常形式で実施。

- ・支部役員会25-1

1) 日時: 平成26年3月8日(土) 13:00～14:00

2) 場所: 東北大学青葉山キャンパス東北大学連携ビジネスインキュベーター(T-Biz)会議室

3) 議事: 平成25年度事業および決算報告, 平成26年度事業計画に関する意見交換

(2) 定時支部総会

支部役員討議と了承を得て、メール審議にて実施。

1) 日時: 平成25年5月11日メール発信～24日返信〆切にて実施。

2) 場所: 東北大学青葉山キャンパス東北大学連携ビジネスインキュベーター(T-Biz)403号室にて返信内容確認。

3) 議事: 平成25年度役員選出、平成24年度事業報告および決算報告、平成25年度事業計画案および事業予算案について支部役員会提案内容を了承。

(3) 支部研究会等

- ・支部研究会25-1

1) 日時: 平成25年12月14日(土) 14:00～17:00

2) 場所: 遊学館(山形県立図書館)第5研修室

3) 研究会テーマ: 「環境変化に適応した地域・まちづくりと人間工学」

講演1 「高齢者, 食, 人口などがどのような変化をしているのか, また, 変化していくか」について

講師: 古藤 浩氏(東北芸術工科大学)

講演2 震災復興, まちづくり, 子ども等をキーワードとして

講師: 佐藤 慎也氏(山形大学)

- ・支部研究会25-2

1) 日時: 平成26年3月8日(土) 14:00～17:00

2) 場所: 東北大学青葉山キャンパス東北大学連携ビジネスインキュベーター(T-Biz)会議室

3) 研究会テーマ: 「人間の知的生産性・行動分析」

講演1：オフィス環境と知的生産性

講師：下田 宏氏（京都大学大学院エネルギー科学研究科）

講演2：鉄道運転士のプロアクティブ行動の規定要因

講師：藤野 秀則氏（西日本旅客鉄道株式会社 安全研究所）

・支部研究会 25-3

1) 日時：平成26年3月17日（土）14:00～17:30

2) 場所：東北大学 工学研究科総合研究棟 第二講義室（110号室）

3) 研究会テーマ：「東北地域の人間工学研究フロンティア」

講演1：体周囲に必要なアキ寸法の計測と体系化

講師：若井 正一氏（日本大学工学部建築学科）

講演2：自転車運転時におけるレインコート着用の影響

講師：神田 直弥氏（東北公益文科大学公益学部）

講演3：自動車運転時の若年者と高齢者の脳活動の比較について

講師：原田 一氏（東北工業大学デザイン工学科）

4-3. 関東支部

{支部長：阿久津 正大}

(1) 第43回関東支部大会・第19回卒業研究発表会

・開催日：平成25年12月7日（土）～8日（日）

・会場：首都大学東京 日野キャンパス

・大会長：瀬尾明彦先生

①支部大会 企画セッション：4セッション15題

「認定人間工学専門家の実践事例紹介」演題5題（人間工学専門家認定機構）

「ソーシャルセンタードデザイン（SCD）の概念と事例」演題5題（アーゴデザイン部会）

「レジリエンスの光と影」演題2題（安全人間工学研究部会）

「製品開発と官能評価」演題3題（感性情報処理・官能評価部会）

一般講演：17セッション58題、計73題

②卒業研究発表会 12セッション48題

・機器展示、懇親会

・参加者：295名（正会員93名、非会員27名、学生175名）

(2) 支部委員会

・開催日：平成25年6月1日（土） 会場：日本大学 生産工学部

平成25年12月7日（土） 会場：首都大学東京 日野キャンパス

(3) 支部総会

・開催日：平成25年12月7日（土） 会場：首都大学東京 日野キャンパス

(4) 第18期(2014、2015年度)支部役員選挙

・第18期関東支部選挙管理委員会(委員長：松田文子)により、平成25年10月～平成26年1月に同支部役員選挙を実施。第18期支部委員40名および支部長を選出

(5) 講演会・見学会

・開催日：平成26年3月26日（水） 会場：(株)ケイズデザインラボ(東京都渋谷区)

①講演会 講師：原 雄司氏((株)ケイズデザインラボ代表取締役/3Dコンサルタント)

演題：3D デジタル技術と人間工学

②見学会 見学施設：(株)ケイズデザインラボ 3D デジタルツールショールーム

3D ツール (3D スキャナー、3D モデラー、3D プリンター) の実演、および3D ツールと同ツールによる

製品等を見学

・参加者：25名

(6) ニュースレターの発行：講演会・見学会の案内(2月)

4-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真}

- (1) 平成25年度一般社団法人日本人間工学会東海支部総会
 - ・開催日時：平成25年5月18日(土) 15:00-15:30
 - ・場所：名城大学名駅サテライトキャンパス
- (2) 講演会の開催
 - ・開催日時：平成25年5月18日(土) 15:45-16:45
 - ・場所：名城大学名駅サテライトキャンパス
 - ・演題：「ストレスが自動車運転に及ぼす影響と交通安全」
 - ・演者：前名城大学教授、前日本人間工学会東海支部支部長 横森 求 氏
- (3) 支部役員会
 - ・支部長選出および役員改選
 - ・第1回支部役員会 平成25年5月18日(土) 名城大学名駅サテライト
 - ・第2回支部役員会 平成25年10月31日(金) 椋山女学園大学
 - ・第3回支部役員会 平成25年12月21日(土) 名古屋ガーデンパレス
- (4) 日本人間工学会東海支部2013年研究大会
 - ・開催日：平成25年11月2日(土)
 - ・開催場所：椋山女学園大学(名古屋市千種区)
 - ・大会長：富田明美(椋山女学園大学教授)
 - ・特別講演：「テレビ・メディアと報道—東日本大震災・映像ドキュメント—」
柄窪優二氏(椋山女学園大学教授)
 - ・学生支援特別企画：「一架け橋企画もセカンドステージへー
“キャリアデザインいつやるの？ 今でしょ！”
 - ・一般講演32題、参加者84名

4-5. 関西支部

{支部長：森本 一成}

- (1) 企画・行事等
 - 1) 見学会&講演会
 - 川崎重工業株式会社 明石工場 技開本ビル(兵庫県明石市)
 - 開催日：平成25年11月14日(木)
 - 時間：14:00~17:00(集合13:50、解散17:10) 参加者20名
 - 工場見学、講演『川崎重工業の人間工学についての取り組みのご紹介』
 - 2) 支部大会
 - 開催日：平成25年12月14日(土)
 - 主催：日本人間工学会関西支部
 - 場所：京都工芸繊維大学
 - 大会長：渋谷 雄(京都工芸繊維大学 情報科学センター 教授)
 - 事務局長：村田 和義(京都工芸繊維大学 情報科学センター 助教)

行事内容：

* 特別講演「ICTが拓くユニバーサル社会」

竹中 ナミ 様 (社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長)

*懇親会

*一般発表4セッション (発表31件)

3) 関西支部、中国・四国支部合同シンポジウム

開催日：平成25年12月14日 (土)

場所：京都工芸繊維大学

テーマ：人間工学を叱る

コーディネーター：藤田悦則 (中国・四国支部 副支部長)

パネラー (敬称略)：

①三本 和彦 (モータージャーナリスト)

②長町 三生 (広島大学名誉教授)

③久保 博子 (奈良女子大学准教授)

④山本 幸男 ((公財) ひろしま産業振興機構カーテクノロジー革新センター センター長,
元マツダ (株) 技術研究所副所長)

⑤大澤 辰夫 (ボーズ・オートモーティブ (株))

4) 春季講演会

開催日：平成26年3月22日 (土)

会 場：大阪府立大学 I-site なんば

第一部：「介護対応住宅について」

講 師：大元尚弘先生 (パナホーム株式会社)

講演概要：

「超高齢者社会に対応した家づくり」をテーマに、パナホーム株式会社の取組や介護対応住宅の考え方やポイントを紹介する。

第二部：「生活習慣病の予防・管理のための生体指標とその計測 ～血圧管理を例に～」

講 師：佐藤博則先生 (オムロンヘルスケア株式会社)

講演概要：

高血圧の診断に使われる血圧値は、診察時の値から家庭での値に軸足が移ってきた。血圧は生活習慣や環境の影響を受け常に変化し、診察室での値はそのひとつにすぎず、脳や心臓における血管イベントの発症を抑制する目的においては、不十分であることがわかったからである。

さらに、生活習慣病の予防と管理のためには、毎日の血圧を計測し、適切な値に保つことができているか観察することになるが、同時に生活習慣や環境の変化とともに記録された膨大なデータからはその関係も垣間見えてくる。生活習慣病の予防や管理のために必要な、生活習慣や環境の改善につながるその一例について紹介する。

5) 協賛

§ ヒューマンインタフェースシンポジウム2013

主催：ヒューマンインタフェース学会

テーマ：共創 一響きあう未来、日本の創造一

日時：2013年9月10日(火)～13日(金)

場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス

§ 日本認知心理学会安全心理学部会第34回研究会

主催：安全心理学部会

日時：2013年10月26日(土) 15:00～17:00

場所：大阪大学人間科学部 31 教室

◆「歩行支援サインの認知」 森本 一成（京都工芸繊維大学）

§ 照明学会関西支部 専門講習会「LED の積極活用 ～毛髪再生と植物工場～」

主催：応用物理学会関西支部

日時：2013年10月28日（月）13時30分～16時10分

場所：大学コンソーシアム大阪 D・E ルーム

（大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階）

◆「LED が拓く発毛新時代：毛髪科学の基礎的観点から」 乾 重樹先生（大阪大学）

◆「LED 植物工場の概要」（仮題） 渡辺 博之先生（玉川大学）

(2) 会議・総会等

1) 第1回企画幹事会

開催日：平成25年 4月 16日（火）

会 場：摂南大学地域連携センター

2) 第2回企画幹事会

開催日：平成25年 5月14日（火）

会 場：神戸国際会議場2F 事務室

3) 第3回企画幹事会

開催日：平成25年 10月24日（木）

会 場：京都工芸繊維大学

4) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成25年12月 14日（土）

会 場：京都工芸繊維大学

5) 第4回企画幹事会

開催日：平成26年 1月11日（土）

会 場：京都工芸繊維大学

6) 平成24年度～平成25年度支部長・副支部長・評議員選挙

投票期間：平成25年 1月 9日（木）～ 1月22日（水）

7) 選挙管理委員会

開催日：平成26年 1月28日（火）

会 場：京都工芸繊維大学

8) 会計監査

開催日：平成26年3月12日（水）

会 場：京都工芸繊維大学

9) 第2回評議員会役員会合同会議

開催日：平成26年 3月22日（土）

会 場：大阪府立大学 I-site なんば

10) 支部総会

開催日：平成26年 3月22日（土）

会 場：大阪府立大学 I-site なんば

出席者：38名（委任状 51名）

11) 優秀発表賞授賞式（支部総会時）（当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象）

〔発表者〕

安達 悠子（大阪大学大学院）

〔発表題目〕

「大学生の医療行為に対する認知・理解度, リスク認知, 受容度」

[発表者]

鈴木 ひとみ (神戸常盤大学)

[発表題目]

「背部体表脈波検知による脊髄損傷者の膀胱内尿量と自律神経活動の評価」

[発表者]

中谷真太郎 (兵庫県立大学)

[発表題目]

「口腔内筋電位測定のための予備検討」

12) その他、評議員会・企画委員会のメール会議を実施

4-6. 中国・四国支部

{支部長：村田 厚生}

(1) 支部理事会開催

第1回 2013年12月8日(日) サテライトキャンパスひろしま

第2回 2014年4月4日(金) 岡山大学大学院自然科学研究科棟 2F201 会議室

(2) 支部総会開催

2013年12月8日(日) サテライトキャンパスひろしま

(3) 第46回日本人間工学会中国・四国支部大会

2013年12月8日(日)

サテライトキャンパスひろしま

大会長：石原茂和先生(参加者：約100名)

一般講演49件

講演論文集広告掲載企業数：1社

(4) 支部講演会開催

開催日：2013年12月8日(日), 場所：サテライトキャンパスひろしま

題目：「現場から生まれる福祉用具」

講師：橋本泰典氏(橋本義肢製作株式会社 社長)

(5) シンポジウム開催(関西支部との共同シンポジウム)

開催日：2013年12月14日(土), 場所：京都工芸繊維大学

テーマ：「人間工学を叱る」

コーディネーター：藤田悦則副支部長

パネラー：①三本和彦(モータージャーナリスト) ②長町三生(広島大学名誉教授) ③久保博子(奈良女子大学准教授) ④山本幸男((公財)ひろしま産業振興機構カーテクノロジー革新センター センター長, 元マツダ(株)技術研究所副所長) ⑤大澤辰夫(ボーズ・オートモーティブ(株))の各氏

(6) 平成25年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員(岡久雄副支部長(岡山大学), 田口豊郁支部理事(川崎医療福祉大学), 寺内睦博支部理事(広島国際大学))による絶対評価を実施した結果, 総得点の上位2位に入った以下の3編の論文が優秀論文として表彰された。

講演番号：308

オシロメトリック法に基づく血管粘弾性の推定

松本遼(広島大学), 高間蓮成, 伊藤雅史, 平野博大, 平野陽豊, 栗田雄一(広島大学大学院), 鶴川貞二(日本

光電), 中村隆治, 佐伯昇, 河本昌志, 吉栖正生, 辻敏夫 (広島大学大学院)

講演番号: 108

リスクテイキング傾向と模擬自動車運転における不安全行動の関連性

遠藤拓也, 村田厚生 (岡山大学大学院)

講演番号: 206

鞭打ち傷害低減シートフレーム構造の開発

西田篤史, 中村実, 桑野竜次, 杉本栄治 (デルタ工業株式会社), 小倉由美, 藤田悦則 (株式会社デルタツーリング), 金子成彦 (東京大学大学院)

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長: 和田 親宗}

(1) 第34回支部代議員会

1) 月 日: 平成25年10月26日 (土)

2) 会 場: 霧島国際ホテル (鹿児島県霧島市)

3) 議 題

- ・平成25年度活動報告と決算
- ・平成26年度活動計画と予算案
- ・平成26年度第35回大会について
- ・その他

(2) 第34回支部総会

1) 月 日: 平成25年10月27日 (日)

2) 会 場: 霧島国際ホテル (鹿児島県霧島市)

3) 議 題

- ・平成25年度活動報告と決算
- ・平成26年度活動計画と予算案
- ・平成26年度第35回大会について
- ・その他

(3) 第34回九州・沖縄支部大会

(電子情報通信学会第70回福祉情報工学研究会と共催, 人類動態学会西日本地方会第38回大会と併催)

1) 月 日: 平成25年10月26日 (土) ~27日 (日)

2) 会 場: 霧島国際ホテル (鹿児島県霧島市)

3) 大会長: 岡村俊彦 (鹿児島県立短期大学)

4) 発表演題数: 計25件 (共催分: 17件, 併催分8件)

参加者: 延べ65名

最優秀発表賞: 徳富悌志 (大分大学)

優秀発表賞: 今井勝 (熊本高専) ならびに上島佳佑 (和歌山大学)

懇親会: 霧島国際ホテル (鹿児島県霧島市)

(4) 「九州支部第34回大会講演集(九州人間工学 第34号)」の作成

(5) 「九州人間工学 第34号」の発送

5. 研究部会活動

5-1. 情報社会人間工学研究部会

{部会長：平沢 尚毅}

(1) 平成 25 年度活動テーマ

「情報社会人間工学の歩みと展望」について探求した。今年度は、当初設定した部会の最終年度であり、これまでの総括と今後の方針を決めた。

(2) 活動内容(手段・方法)

1) ISO/TC159/SC4/WG6 とのシンポジウムの協賛

TC159/SC4/WG6 が主催する人間工学会本大会における「人間中心設計関連標準化動向とその是非」をテーマとしたシンポジウムを協賛した。下記のような報告があった。

- ・人間中心設計の国際規格 ISO9241-210:2010 のポイント (安藤昌也 (千葉工大))
- ・人間中心設計関連規格—Common Industrial Format for Usability (CIF)及び Software Product and System Quality Requirements, Measurement and Evaluation (SQuaRE)— (福住伸一 (日本電気株式会社))
- ・人間中心設計規格 ISO 13407, 9241-210 の産業界における役割 (吉武良治 (芝浦工大))
- ・ISO 9241-210 が産業界に与える影響 (その2) (三樹弘之 (沖電気 (株)) 他)
- ・人間中心設計の現状と未来 (平沢尚毅 (小樽商科大学))
- ・人間中心設計推進と規格制定の意義 (黒須正明 (放送大学))

2) ワークショップの開催

NPO 法人人間中心設計推進機構との協賛で「人間中心設計関連の品質規格動向と利用品質メトリクス」と題したセミナーを、平成 25 年 11 月 30 日 (14:00-17:00) に芝浦工大にて開催した。次のようなプログラムを実施した。

- ・基調講演「SQuaRE における人間中心設計」 福住伸一 (日本電気株式会社)
- ・パネルディスカッション
パネラーによるショートプレゼンテーション
- ①「おさらい 9241-210」 三樹浩之 (沖電気工業株式会社)
- ②「CIF って何？」 吉武良治 (芝浦工業大学)
- ③「利用品質を測る」 平沢尚毅 (小樽商科大学)
- ・パネルディスカッション「ISO2506x って何」
- ・質疑応答(事前に回収した質問用紙へ回答)

3) 役員会

3 月 27 日 (16:00-18:00) に役員会が開催され、部会の活動終了が承認された。今後は、新たな部会についてのビジョンを共有するために、ディスカッションを継続的に行うことになった。

(3) 成果

人間工学と情報システムあるいは情報機器との接点を標準規格の観点から探索することができた。ISO/IEC JTC1/SC7/WG28 が発足されたことにより、情報システムやソフトウェア開発の領域へ人間工学が更に貢献できることを理解できた。

(4) 問題点

今年度で部会が終了するが、これまでの実績を整理する必要がある。

(5) 展望

今後、新たな部会を発足するかどうかについて、役員の研究領域や関心を継続的なディスカッションを通して共有していく必要性を確認した。この結果を基に新たな部会の発足を検討してゆくことになった。

5-2. 聴覚コミュニケーション部会

{部会長：江袋 林蔵}

(1) テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成 25 年度は、第 2 会期・第 5 年次に当たった。Ergonomics の分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考えた前年度の活動に続き、平成 25 年度も、当学会独自の活動を図ってきたが、当初幹事会で取り決めた 10 年間の活動期間が満了したので、幹事会ならびに部会内合意の上今年度を以て活動を終了することとする。

(2) 聴覚コミュニケーション研究のミッション

Ergonomics 分野における独自の研究領域開拓を図ってきた。

(3) 方法

1) JES 内他部会との交流・研究会の開催・および他学会との交流。

2) 幹事会の開催

3) AEG ニュースレターの発行

平成 25 年度展望を踏まえ前年度に準じて活動を推進してきた。平成 25 年度は最終年度であるので、活動を聴覚コミュニケーション研究会 (AEG 研究会) に集約し内容の充実を図った。

(4) 成果

概要

平成 25 年度は第 7 回 AEG 研究会を開催した。

I. 平成 25 年度の活動成果 第 7 回 AEG 研究会

i. 日時 平成 25 年 9 月 4 日 (水) 10:00~17:30

ii. 場所 工学院大学オープンカレッジ 403 教室

iii. プログラム

[聴覚とアゴノミクス]

招待講演：

近藤暹 ((株)東京情報科学研究所)、聴覚で疲労が図れるか、一視覚方式との対比—

一般講演：

水浪田鶴・倉方憲二 (産総研)、高齢者・視覚障害者に見られる家電製品の音声案内とは

江袋林蔵 (SAU 研究機構)、音声入力応用のアゴノミクス (III)

[聴覚と言語]

招待講演：

籠宮隆之 (国立国語研究所)、聴覚補聴器の性能を評価するためのパラ言語情報聴取試験の開発

一般講演：

江袋林蔵 (SAU 研究機構)、日本語語彙の単語対音素構造に関する研究

[聴覚と音楽]

招待講演：

松谷晃宏 (東京工業大学)、ヴァイオリン演奏に関する実験的研究—弦の振動からコンサートホールの響きまで—

一般講演：

梅田 勲 (パラコーン)・徳弘一路 (神奈川工大・昭和音楽大)、パラコーン特許の効果測定と評価

徳弘一路 (神奈川工大・昭和音楽大)・伊藤直樹 (インターメディアプランニング) 人間工学的アプローチによる音楽研究—聴覚コミュニケーションと関連して—

AEG 研究会最終回記念演奏会

AEG 研究会最終回記念懇親会

5-3. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

- (1) 研究部会の会員（日本人間工学会会員資格を有する者＝H26年3月末現在32名）と、研究会の参加者を結ぶメンバーリスト（H26年3月末現在160名登録）を用いた情報発信を行っている。鳥居塚（日大）ほか、中西（慶應義塾大）・吉村（海技研）が幹事メンバー。安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力した。
- (2) 平成25年度は3回の研究会を開催（主催・共催を含む）した。その日時、場所、演題は下記のとおりである。
 - 1) 第16回研究会（品質保証研究会エラーマネジメント研究会と共催）
日時：平成25年5月11日（土）10時00分～19時00分
場所：早稲田大学西早稲田キャンパス62号館1階 中会議室（東京メトロ副都心線西早稲田）
話題提供者：E. Hollnagel氏
タイトル：FRAM (functional resonance analysis method)
(機能共鳴型事故分析/未然防止の分析手法であるFRAMについてのレクチャと討議)
RAG (The Resilience Analyses Grid)
(レジリエンスの度合いを評価するスケールであるRAGについてレクチャと討議)
 - 2) 第17回研究会（日本人間工学会関東支部第43回大会での企画セッションとして開催）
日時：平成25年12月8日（日）13時15分～15時15分
場所：首都大学東京日野キャンパス
話題提供者：長谷川尚子（電力中央研究所）
タイトル：組織がレジリエントであるための要件とは？
－ 高信頼性組織を拡張した理論的枠組みと震災対応にみられる具体的事例－
話題提供者：小松原明哲（早稲田大学）
タイトル：レジリエンスによる事故を避ける－機能共鳴型事故を巡って
 - 3) 第18回研究会（日本人間工学会公開講座と共催）
日時：平成26年2月26日（水）14時00分～16時00分
場所：立教大学池袋キャンパス11号館A304教室
話題提供者：古市昌一氏（日本大学）
タイトル：シリアスゲームの構築法と医療安全等への応用

5-4. 3D人間工学研究部会

{部会長：河合 隆史}

- (1) 活動目的
平成25年度の活動では、立体映像（3D）の利活用とイノベーションにかかる人間工学的課題として認知・情動的側面に着目し、研究者や事業者との最新の情報共有を目的とした。
- (2) 手段・方法・成果
2013年6月1～2日にかけて、日本大学 津田沼キャンパスにて開催された日本人間工学会 第54回大会において、企画シンポジウム「立体映像の認知・情動特性」を実施した。当該シンポジウムでは、3D表現における時空間知覚特性に関する最近の研究動向をはじめ、注意・記憶や選好判断、情緒表現などへの影響に関する実験的検討について紹介・議論を行った。また、米ハリウッドを拠点とする3D関連の業界団体である国際3D協会 日本部会との連携により、3Dの利活用に関する情報提供ウェブサイト構築した。
- (3) 展望
平成25年度に開催したシンポジウムでは、活発な議論が行われ、人間工学分野における3Dの特性や利活用に対する関心が確認できた。今後は、最新の研究成果を共有する場の継続に加えて、国内外の動向も併せてウェブサイトを紹介し広く情報を発信していくことで、3Dの利活用の促進やイノベーションの創出に貢献したい。

5-5. 医療安全研究部会

{部会長：土屋 文人}

(1)活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

(2)活動内容及び成果

本年度は当初予定していた日本病院薬剤師会との共同による製薬企業を対象とした講習会は諸般の事情により実施できなかった。平成26年度に予定している人間工学会や海外での学会発表についてはその基礎資料を収集した。

5-6. 衣服人間工学部会

{部会長：高部 啓子}

(1)活動目的

当部会は、平成24年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動を行っている。エコが世界的に取り正されている昨今、衣服の分野においてもどのように取り組むかを具体的に研究するものである。

2年目となる平成25年度は、衣服の構造・デザインや衣服材料の使い方などの分野について、引き続き勉強会や見学会を開催することを企画し、現状について把握することを目的とした。

(2)活動内容

平成25年度は、役員会を3回、例会3回を開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

- 1) 第1回役員会：平成25年5月20日、於 文化学園大学
- 2) 第2回役員会：平成25年7月5日、於 文化学園大学
- 3) 第3回役員会：平成26年2月24日、於 文化学園大学
- 4) 第1回例会

開催日：平成25年7月5日

場 所：文化学園大学

演 題：「グリーンファッションについて」

講演者：FBC サステナブルソリューション代表 田中 めぐみ氏（ニューヨーク在住）

5) 第2回例会(見学会)

開催日：平成25年9月2日3日

場 所：岩手県久慈市、盛岡市

見学先：岩手モリヤ株式会社、久慈衣料株式会社、株式会社プランタンいずみ、
中村工房、久慈琥珀博物館株式会社

内 容：衣服縫製工場見学

参加者：部会長以下25名

6) 第3回例会

開催日：平成26年2月24日

場 所：文化学園大学

演 題：「子供の衣服の機能と安全性」

講演者：NPO 法人 保育の安全研究・教育センター 掛札 逸美氏

(3)成果

・第1回例会では、グリーンファッションを俯瞰した内容についての解説を講師の活動の一端と共に伺い、持続可能なエコの取り組みについて意識していく良い機会となった。

・第2回例会では、価格競争に巻き込まれない高級な商品を提供する高度な技術を持つ、久慈市の工場を3社見学し、岩手モリヤ株式会社社長より、日本国内で縫製工場を維持していくための会社の姿勢、および、震災後の工場内で取り組まれているエコ活動について伺うことができた。また、中村工房では、織物を作り出す工程の説明を受けながら、手紡ぎ、織りの体験および作品の見学をすることで、素材を活かす手法を見直す勉強会となった。

・第3回例会では心理学・国際文化の視点から、日常当然起こりうる事故に対して、いかに安全に暮らす手立てを講じていくかの話をつき、衣服の構造デザインに関しても参加者より問題提起される場となった。

(4) 問題点

- ・引き続き産学協同で、より衣服人間工学の視点からの議論・検討を進める必要があると思われる。
- ・衣服の作り手側だけではなく消費者の考え方にも、共にエコを進める工夫が必要である。

(5) 展望

- ・今年度の工場見学から、この分野での産学協同研究の可能性を感じた。ものづくりに関わる中、小企業等への研究成果の発信を積極的に展開していきたい。次年度以降も、グリーンファッションの考えかたについて勉強会を積極的に進めたい。

5-7. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

(1) 活動目的

本部会は、ヒトの触覚感覚という特性を機器やシステムなどに反映させることを研究する部会であり、触覚に関する基礎研究と応用研究の両側面を扱おうとしている。特に応用研究では実際の製品設計プロセスで活用できるノウハウを蓄積し、それらを積極的に公開することで触覚インタラクションの活用を促進することを目的としている。

(2) 活動内容及び成果

1) HCI International 2013において Tactile and haptic interaction in HCI と題するオーガナイズドセッションを行い、海外の研究者との意見交換を行った。発表演題は以下のとおりである。

- ・ Evaluation of Somatosensory Evoked Responses when Multiple Tactile Information was Given to the Palm
Akihito Jinnai, Asuka Otsuka, Seiji Nakagawa, Kentaro Kotani, Takafumi Asao, Satoshi Suzuki
- ・ Tactile Vibration of Personal Digital Assistants for Conveying Feelings
Atsushi Nakamura, Miwa Nakanishi
- ・ Analysis of spatio-temporal memory on tactile stimuli by using air-jet for development of noncontact tactile display
Kentaro Kotani, Nobuki Kido, Satoshi Suzuki, Takafumi Asao
- ・ Characteristics of Touch Panel Operation with Non-Dominant Hand in Car Driving Context
Yoshinori Horie, Takashi Toriizuka
- ・ Development of Dual Tactor Capability for a Soldier Multisensory Navigation and Communication System
Linda R. Elliott, Bruce Mortimer, Roger Cholewiak, Greg Mort, Gary Zets, Rodney Pittman
- ・ Study on Haptic Interaction with Maps
Daiji Kobayashi, Anna Suzuki, Nanami Yoneya
- ・ Correction Method Based on KI-VPA Model for Changes in Vibratory Perception Caused by Adaptation
Yuki Mori, Takayuki Tanaka, Shun'ichi Kaneko

2) 2014年3月27日に研究部会が行われた。研究部会の環境整備、定期行事の確認、ホームページの更新および触覚研究関連情報の発信手段の検討などの打ち合わせを行った。また、国内での関連動向に関する報告などが行われた。

5-8. 航空人間工学部会

{部会長：田中 敬司}

(1) 目的

航空人間工学に関する知識の普及および情報の共有化を目的として、本年度は、「航空事故の教訓から学ぶ」をテーマとした活動を行った。

(2) 方法

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1) 例会

第95回例会を東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催した。本年度のテーマ「航空事故の教訓から学ぶ」に沿って検討した。例会には102名が参加し活発な議論が行われた。

日時：平成25年6月28日（金） 10:30-16:30

場所：オリンピック記念青少年総合センター（東京・代々木）

講演：

- ・演題 「航空気象情報可視化ツールの開発- 航空気象の見える化を目指して-」

講演者 新井 直樹 氏（東海大学 工学部 航空宇宙学科 航空操縦学専攻）

- ・演題 「Loss of control/アップセット/異常姿勢による事故と訓練（その1）：
事故事例研究 エールフランス航空事故」

講演者 宮地 秀明 氏（日本航空株式会社 安全推進本部 調査役 B777 機長）

- ・演題 「Loss of control/アップセット/異常姿勢による事故と訓練（その2）：
アップセットリカバリートレーニングについて- インシデントをマネジメントするために-」

講演者 久下 友也 氏（全日本空輸株式会社 安全推進センター 安全推進部

安全マネジメントチーム テクニカルスタッフ B767 機長）

- ・演題 「航空事故調査から得られる教訓」

講演者 杉村 守 氏（元運輸省 次席航空事故調査官、現NPO 法人航空・鉄道安全推進機構 理事）

2) 施設見学会

平成25年度施設見学会を宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センターにて行った。総計37名の参加があった。

日時：平成26年1月27日（月） 13:15-15:15

場所：(独)宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター

内容：筑波宇宙センターの見学

- ・展示館（人工衛星、ロケット輸送システム等の宇宙開発経緯）
- ・宇宙飛行士養成棟 宇宙医学生物学研究室 他
- ・国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」運用管制室

3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。委員会の概要は以下のとおりである。

・第57回委員会

日時：平成25年11月13日（月） 17:00-18:30

場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC） 会議室

議題：

- ・第95回例会（平成25年6月28日開催）報告
- ・委員の交代等
- ・今年度見学会の準備
- ・来年度例会の準備
- ・次回委員会

・第58回委員会

日時：平成26年3月27日（月）16：00-17：00

場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC） 会議室

議題：

- ・平成25年度会計報告
- ・平成25年度事業報告
- ・平成26年度事業計画
- ・次回例会（第96回）準備

その他、委員会および例会の活動準備等のため、平成25年度は幹事会を3回開催した。

4) ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。例会及び施設見学会の申し込みをホームページから行えるようにしたことで会員の利便性を高めた。

(3) 成果及び展望

本年度のテーマ「航空事故の教訓から学ぶ」に関して、例会では講演を通して、航空気象情報の可視化に向けて研究開発されている新しいツール、航空機の異常姿勢による事故事例研究と当該事故防止に向けた訓練等の取り組み(Loss of Control)、これまでの航空事故調査から得られる教訓について、知見を得、共有することができた。

活発な質問や議論により参加者の理解を深めることができ、安全意識等の啓発に寄与したものと推測される。

次年度のテーマ設定については、航空を取り巻く最近の動向を踏まえつつ、会員の興味を引く設定とし、活動を継続・展開することにより、より充実化を図り、当部会の目標である航空人間工学の発展、航空安全の推進に寄与できるものとする。

5-9. アーゴデザイン部会

{部会長：上田 義弘}

(1) 目的と活動テーマ：

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。平成25年度は「HCD+SCDを考える」を活動テーマに、研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員：152名(正会員87名、学生会員65名、平成26年3月10日現在)
- ・活動概要：平成25年度は、シンポジウム等3回、大学間交流イベント1回、コンセプト事例発表会1回、見学会1回、合宿研究会1回、加えて、HCI2013(Human Computer Interaction In Las Vegas)にてExperience Vision(ビジョン提案型デザイン手法)の企画セッションを開催。他に、幹事会8回、総会1回、SCD-WGミーティング3回、ビジョンデザイン方法論WGミーティング等、様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 日本人間工学会第54回全国大会にてシンポジウム開催。(平成25年6月2日)

於：日本大学生産工学部、参加者：18名

テーマ：「ソーシャルセンタードデザイン(SCD)で提案をする」

2) 大学間交流イベントーソーシャルデザインにチャレンジしようーを開催。(平成25年6月22日)

於：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、参加者：学生37名、教員4名

3) HCI2013(Human Computer Interaction)にてExperience Vision 企画セッション開催。(平成25年7月24日)

於：Las Vegas国際会議場

4) SCD-WG フォーラム開催(平成25年8月7日)

於：イトーキ東京イノベーションセンターSYNQA 定員50名満席

テーマ：「ソーシャルセンタードデザインの事例とアプローチ」

5) コンセプト事例発表会開催（平成25年9月2日）

於：首都大学東京サテライトキャンパス、参加者：49名

論文発表：7件、ポスター発表：18件、加えてパネルセッション2件を実施。

6) 見学会開催（平成25年11月15日）

見学先：富士通NetCommunity（東京・内幸町）、参加者：18名

テーマ：「スマートシティについてSCDの視点で考える」

7) 日本人間工学会第43回関東支部大会にてオーガナイズドセッション開催。（平成25年12月7日）

於：首都大学東京 日野キャンパス 参加者数：25名

テーマ：「ソーシャルセンタードデザイン(SCD)の概念と事例」

8) 2013年度合宿研究会In勝沼ぶどうの丘（山梨）（平成26年3月14日、15日）

於：湘南国際村センター会議室、参加者：39名

テーマ：「"SCD（ソーシャルセンタードデザイン）で提案する" ワークショップ」

9) 2013年度部会総会開催（平成26年3月15日）

於：湘南国際村センター会議室、参加者：39名

2013年度活動報告及び決算、2014年度活動計画及び予算の審議、承認

10) WG 活動：

・ビジョンデザイン方法論-WG はHCI2013での発表をもって活動を終息。

・SCD-WG 活動中（担当幹事：高橋(克)、山崎、八木、郷、西内、安藤、笠松、上田）

・ホームページ-WG 活動中（担当幹事：吉井、高橋）部会ホームページのリニューアルを実施。

11) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、

幹事会メーリングネットワークの運用を実施。特に平成25年度は部会ホームページのリニューアルを実施。

(3) 成果と展望：

・ビジョン提案型デザイン手法に関して国際学会 HCI2013(Human Computer Interaction)にて Experience Vision 企画セッションを開催し、手法の公開と普及を推進できた。

・また、HCDに加え、社会、環境面からもデザインを考える「SCD（ソーシャルセンタードデザイン）」を提唱し、SCDの概念や手法、プロセスの研究が本格化してきた。

・今後はSCDについて事例研究をさらに広げ、そこから、SCDのための手法やプロセスを構築したい。その上で、得られた成果をまとめ、SCDに関する方法論の確立を目指す。

5-10. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：宇賀神 博}

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成を図る。

(2) 手段・方法

1) 関東支部第43回大会の企画セッションとして「製品開発と官能評価」と題したシンポジウムを開催。フレーバー、化粧品、照明の領域で官能評価に関わってきた3名の研究者がそれぞれの研究事例や研究方法を紹介し、今後の課題について討論した。

2) 黒須正明氏（放送大学）による学術講演会「ユーザエクスペリエンスにおける感性情報処理」を開催した（平成26年3月、東京・秋葉原）。

3) 第22回システム大会における関連若手研究者や大学院生の発表を支援した。

(3) 成果

- 1) 関東支部第 43 回大会の企画セッションには予想を上回る 30 名近くの参加があり、官能評価研究の成果を製品開発に結びつけるうえでの諸課題について活発な議論が行われた。
- 2) 「ユーザエクスペリエンスにおける感性情報処理」講演会には会場をほぼ満杯にする 35 名の参加があり、熱心な質疑応答が散会后もしばらく続いた。
- 3) 第 22 回システム大会では計 9 件の講演発表を支援し、研究交流会での情報交換も含めて若手研究者の育成に寄与した。

(4) 問題点と展望

実施した事業はそれぞれ有益な成果を上げたが、講演が主体で年度後半に集中した。また、活動内容については部会ホームページで詳細に報告しているが、その更新が遅れ気味になっている。本部会の目的の推進のために、さらなる事業の多様化と機会拡大を図り、あわせて機動性の向上に努める必要がある。

5-11. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器機・用具の開発、QOL の向上に向けた環境の提案、快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

(2) 手段・方法

- 1) 第 21 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催
平成 25 年 10 月 12 日（土）に滋賀県彦根市において滋賀県立大学看護学部の伊丹君和教授が主催した。一般演題の発表、滋賀県立大学 安田寿彦先生による教育講演「看護・介護における工学的支援の例」ならびに（株）村田製作所 次世技術研究所 神波誠治先生による特別講演「（株）村田製作所のヘルスケア分野における取り組みのご紹介」が行われた。
- 2) 「人間工学」誌に部会会員が論文投稿するようよびかけた。
- 3) 看護人間工学研究誌第 14 巻を発行（平成 26 年 3 月）し、部会員に送付した。
- 4) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第 54 回大会への参加を広くよびかけた。

(3) 成果

- 1) 第 21 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会
参加者は約 45 名、一般演題 13 題が発表した。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。今後の研究に役立つ内容であった。
- 2) 部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿
原著等の掲載はなかったが、日本人間工学関東支部大会参加報告が Vol. 49, No. 1 に掲載された。
- 3) 看護人間工学研究誌第 14 巻を発行（平成 26 年 3 月）し、部会員に送付した。
寄稿 2 編、研究報告 2 編、事例報告 1 編、第 21 回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

(4) 問題

- 1) 看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員がいる。
- 2) 「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。
- 3) 部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

(5) 展望

- 1) 看護人間工学部会員の人間工学会への入会促進に向けて引き続き取り組んでいく。
- 2) 本部会での研究発表と「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿を促進する。
- 3) 看護人間工学部会のホームページの英語版を設ける。
- 4) 看護人間工学研究誌、研究発表会の充実をはかる。

5-12. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

(1) テーマ

人に関する幅広い領域での技術調査と海事人間工学研究への応用

(2) 方法・手段

1) 研究会・見学会の開催

平成25年11月7日(木)、兵庫県立工業技術センターにて海事人間工学研究部会 研究会・見学会を開催した。研究会では、まず水産大学の川崎潤二教授が、漁業、漁船及び漁業従事者を対象に実施している、時間を主体とした調査研究について講演した。そして、労働時間からみた漁船労働の特徴や、作業の安全性を検討する上での指標に関連して作業時間を測定分析して得られた知見などを紹介した。

また、兵庫県立工業技術センターの瀧澤由佳子主任研究員は、兵庫県立工業技術センターにおけるヒューマンインタフェースに関する研究として、高齢者の生活を見守るためのモニタリングシステムへの応用を目指した口腔内加速度センサを用いた発話検出等について紹介した。

最後に、兵庫県の中企業を支える開かれたものづくり技術を支援している兵庫県立工業技術センターの研究施設を見学した。

2) 企画セッションの提案

平成25年10月、英国 マンチェスターで開催された2013 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2013)にて、人間中心の交通移動体システムに関する特別セッション Human Centered Transportation Systems を提案し、6件の講演を行った。

3) 協賛

平成25年12月、インド ナグプールで開催された6th International Conference on Emerging Trends in Engineering & Technology (ICETET-13)を、協賛した。海事人間工学研究部会からは、題目「Analysis of A Mariner's Performance using Large Model Sensor and Physiological Index」の講演をおこなった。

4) ホームページの作成ほか

研究部会の価値とその意義を、部会員と共有するとともに、インターネットを利用して学会員に広く発信するため、研究部会のホームページ及び研究部会のロゴを作成した。ホームページは、近日公開の予定。

(3) 成果

研究会、見学会及び国際会議への参画を通じて、現場の最前線及び教育、研究の現状に関する情報共有を図ることができた。また、広く海事人間工学に応用できる技術や手法に関する調査を行うことができた。

(4) 展望

今後も引き続き、海事分野の若手研究者を開拓し、人間工学分野に係わる研究者を獲得するために、学会員にとって魅力的な研究会及び見学会を開催する。

5-13. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：新家 敦}

(1) 活動目的

本研究部会はビッグデータの人間工学応用を目的として平成26年2月25日に設立された。

ビッグデータを解析する技術は今日注目されつつあるが、人間の生活行動・作業活動等を扱う人間工学的視点による解析はまだ不十分である。

本専門研究部会の活動を通じて、ビッグデータに内在する人間の行動等の特性を明らかにし、その知見を社会に還元していく。

(2) 手段・方法・成果

1. 平成26年6月に開催される日本人間工学会第55回大会において、部会主催シンポジウムを開催すべくその準備を開始した。

2. 学会誌「人間工学」にビッグデータに関する総説等の投稿を行うべく準備中である。

(3) 展望

ビッグデータとはセンサからの出力、SNS (Social Networking Service) のテキスト情報、機器の動作記録 (ログ) などの集積である。すなわちその多くは人間の行動の結果として得られるものとなっている。社会がビッグデータを解析・応用し、より深い洞察を求めるとき、必ず人間の特性を良く知る人間工学の専門家の手が必要となるであろう。

本研究部会は、これまで人間工学の研究者・実践者が深く人間を研究した成果を、ビッグデータの解析に反映させるための方法論や手法を検討していく。

5-14. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ:

感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム大会と称して21年前に発足した。今回は神奈川工科大学主催が主催し、大学院セミナーハウス (八王子) にて3月14日、15日の二日間の日程で開催された。企業展示も含め、のべ100名を超える参加者があり、成功裏に終了した。大会および大会開催に向けて数回の幹事会を開いたので報告する。

(2) 部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時：9月7日(土)18:00~21:00

場所：文化大学(新宿)

議題：本大会の今後の事業形態について、次回開催地、開催形態 等

・第2回システム大会幹事会

日時：11月23日(土)15:00~18:00

場所：文化大学(新宿)

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：3月1日(土)15:00~17:00

場所：文化大学(新宿)

議題：プログラム枠作成、企業展示検討、他

(3) 展望：昨年度より検討されている部会活動の中心的課題である「人間工学のシステム関連の分野を包括した研究」をさらに発展させる予定である。また積極的に電子媒体を駆使し活動することを検討している。

Ⅲ. 平成26年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当：堀江 良典、本多 薫}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、安寧な社会システムを構築するために、人間工学を実践する学術団体として寄与することを目指す。
- (2) 第55回大会（学会設立50周年記念大会）を川野常夫大会長のもと平成26年6月5日（木）～6日（金）に神戸コンベンションセンター「神戸国際会議場」で開催する。
- (3) 平成26年定時社員総会を平成26年6月5日（木）に神戸コンベンションセンター「神戸国際会議場」において開催し、平成25年度事業報告・収支決算、平成26年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第56回大会を吉武良治大会長のもと平成27年6月13日（土）～14日（日）に芝浦工業大学芝浦キャンパスで開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページのコンテンツの充実、機能の追加をはかり、ホームページを中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第50巻2～6号および第51巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験（A方式試験）を年1回、筆記試験免除条項の適用（B方式試験）を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度（生涯研修制度）推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め次年度総会までに得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、企画担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、小中学校におけるICT機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会、IEA担当、役員選出に関する検討委員会、第55回大会担当および第56回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、システム大会部会の計12研究部会で活動を行う。
- (11) IEA（国際人間工学連合）と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAウェブサイトのリニューアル支援、次年度IEA理事会への出席準備、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会の協力を行う。平成26年5月21日～24日に韓国・済州島で開催されるACEDならびにESK（大韓人間工学会）/JES合同シンポジウム2014の開催に協力する。
- (12) ISO/TC159（人間工学）分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。
- (13) 平成26年度各賞の授与式を行う。また平成27年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (16) 学会主催の公開講座、シンポジウム等の行事に関する企画と調整を行う。
- (17) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：松田 文子}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をHPにて迅速に情報発信する。また、新規コンテンツの充実、機能の追加、そしてウェブサイトのセキュリティ機能の強化を行う。
- (2) グッドプラクティスデータベース（GPDB）の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努める。表彰委員会・人間工学専門家認定機構と連携し、「専門家100名が選んだ人間工学GP賞」を活用した情報発信を行う。
- (3) HPのスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営（取材・記事制作・HP掲載）を引き続き行い、人間工学人材の社会における活躍を積極的に情報発信する。
- (4) 編集委員会と連携を図り、投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備に必要な電子査読システムの開発を技術面から支援する。
- (5) 人間工学関連リーフレットの全国大会・支部大会などでの配布を行い、特に人間工学初学者・学生などへの啓発活動を推進する。
- (6) 50周年記念企画への対応要請を受け、「人間工学博物館（バーチャルミュージアム）」の実現に向け、引き続き検討を行う。
- (7) 産業保健スタッフに対する人間工学の普及をはかるため、産業医学ジャーナル（産業医学振興財団）へ人間工学講座の特集記事を寄稿する（H26.5月号～H27.3月号の計6巻を予定）。
- (8) 支部大会講演集など、各方面で利用要望の高い学会ロゴについて、ロゴ規程の整備を行う。

2-2. 編集委員会

{委員長：大須賀 美恵子、副委員長：榎原 毅}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の通常編集・発行業務を行う。
- (2) 「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方について引き続き検討する。特に、前年度に着手した学会設立50周年特別企画を他委員会・部会等との連携・協力を得てさらに充実させる。
- (3) 論文投稿の推進を図る。クイック・レビュー制度の周知方法とフローを見直して再度試行し、継続して実施できる仕組みにする。
- (4) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、前年度に構築し試行開始した電子査読管理システムを本格的に運用する。更なる利便性向上のために、利用者からの意見を基に、必要に応じてシステムの改訂を行う。
- (5) 研究上の倫理的配慮と利益相反の申告、著作権譲渡手続きの規定および体制を構築し、これらに関する情報の管理方法を整備する。学術担当と連携して利益相反の考え方についてさらに議論を深め、会員への啓蒙をはかる。
- (6) 編集委員会（全体会議）は年3回程度とし、開催のない月にはweb会議による編集委員会、あるいはメーリングリストを活用した電子編集委員会を開催する。委員会経費の節減を図るとともに、編集委員の居住地格差を是正する。
- (7) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) 日韓共同シンポジウム 2014 (ACED と共催, 濟州島) の JES 窓口として会員参加への協力
- (2) 第 55 回大会 50 周年記念企画として, Andy Imada 前 IEA 会長の招聘と, 記念講演の企画
- (3) IEA 理事会(6 月 22~23 日)への参加 台北、台湾

国際協力委員が JES からの council member として 3 名分の投票権執行

- (4) 国際協力活動およびその他

- ・IEA アワード申請への協力
- ・IEA 内の各委員会への協力
- ・Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED) 開催に向けての JES の貢献の可能性について検討
- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- ・学会誌への参加報告の執筆

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志, 副委員長：佐藤 洋}

ISO/TC159 (人間工学) 分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

- (1) 会議：全体会議4回、分科会延べ30回前後開催予定

- (2) 予定されている主な審議項目

- ・ SC1 (人間工学の一般原則)
 - ・ ISO/PWI Ergonomic processes - Part 1 Executive level
 - ・ ISO/PWI Ergonomic processes - Part 2 Management level
 - ・ ISO/NP 6385 - Ergonomic principles in the design of work systems
- ・ SC3 (人体寸法と生体力学)
 - ・ ISO/DTR 12295 Ergonomics — Application document for ISO standards on manual handling (ISO 11228 -1, ISO 11228-2 and ISO 11228-3) and working postures (ISO 11226)
- ・ SC4 (人間とシステムのインタラクション)
 - ・ ISO/NP 9241-11: Ergonomics of human-system interaction - Part 11: Usability: Definitions and concepts
 - ・ ISO/ NWIP- Ergonomics - Accessible design - Indicator lamp "Ergonomics - Accessible design - Indicator lamps on consumer products
 - ・ ISO/CD 9241-392- Ergonomics of human-system interaction — Part 392: Ergonomic requirements for the reduction of visual fatigue from stereoscopic images
 - ・ ISO/DIS 9241-391 Ergonomics of Human System Interaction — Part 391: Requirements, analysis and compliance test methods for the reduction of photosensitive seizures
 - ・ ISO/DIS 9241-392 Ergonomics of human-system interaction — Part 392: Ergonomic recommendations for the reduction of visual fatigue from stereoscopic images

- (3) 国際会議予定

- ・ ISO/TC159/SC1 総会 (2014 年 5 月、東京)、ISO/TC159/SC4 総会 (2014 年 5 月、札幌)、ISO/TC159/SC3 総会 (2014 年 7 月、ベルリン)、他各 SC、WG の国際会議複数予定

2-5. 表彰委員会

{委員長：齊藤 進、副委員長：大内 啓子}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携して公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2) 平成 26 年定時社員総会において、各賞受賞者に対する授与式を行う。
- (3) 平成 27 年度の各賞受賞候補を選考するとともに、表彰の準備を行う。
- (4) 表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。
- (5) 国際人間工学連合及び国内外の他学会表彰制度を検討し、本学会の表彰制度の充実化を図る。
- (6) その他、表彰委員会所掌業務への迅速な対応に努める。

2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1) 四半期ごとに委員会を開催し、安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (2) 国際協力委員会や他学会と連携して安全関係のシンポジウム、研究会等を開催する。
- (3) 日本人間工学会第 55 回大会のシンポジウムを企画・実施する。
- (4) 日本学術会議安全工学シンポジウムの運営委員を選出するとともに、オーガナイズド・セッションを企画する。
- (5) 安全人間工学研究部会の運営をサポートする。

2-7. 学術担当

{担当：横山 清子、青木 和夫}

- (1) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (2) 人間工学者の行動規範について、必要があれば改定を検討する。

2-8. 企画担当

{担当：徳田 哲男}

- (1) 学会の公開講座等の企画を行う。
- (2) 大会における学会企画シンポジウムの企画を行う。
- (3) その他、学会主催の行事に関する企画と調整を行う。

2-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：吉武 良治、副機構長：福住 伸一}

- (1) 資格認定試験を実施する。
資格認定試験（A 方式試験）を年 1 回、筆記試験免除条項の適用（B 方式試験）を年 1 回実施する。
準専門家・人間工学アシスタント試験を年 4 回程度実施する。
A 方式試験：2014 年 9 月 6 日（土） 東京
- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する。
総会 日時：2014 年 4 月 25 日（金） 16：00～17：00
会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス 8 階 802
講演会 日時：2014 年 4 月 25 日（金） 13：30～15：45
会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス 8 階 802

講演：白石 葵（株）博報堂アイ・スタジオ

演題：「Web制作現場におけるUXデザインの取り組みーUXプロセス評価シートの活用事例等ー」

講演：石田 健二（株）デンソー

演題：「メーカ企業に求められる人間工学とデンソーにおける実践事例についてー眠気検知技術の研究開発ー」

話題提供：新家 敦（株）島津ビジネスシステムズ
「ビッグデータ人間工学研究部会」の紹介

幹事会（2回開催予定）

(3)再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をし、ホームページにも再認定の手続きについて掲載する。

(4)シンポジウムを開催する。

日本人間工学会第55回大会（2014年6月、神戸国際会議場）、AHFE（2014年7月19日～23日、ポーランド）、日本人間工学会関東支部大会においてシンポジウムを行う。

(5)JES学会誌へGP賞紹介記事を企画し、推進する。

(6)機構ホームページ、会報、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。

(7)人間工学グッドプラクティスデータベース作成と「人間工学グッドプラクティス賞」（GP賞）の審査に積極的に協力する。

(8)IEA専門家教育委員会の活動に協力する。

(9)学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。

(10)CPEセミナーを開催する。

[臨時委員会・担当]

2-10. 小中学校等におけるICT機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会 {委員長:齊藤 進}

わが国では、2010年に閣議決定された新成長戦略に沿い、総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」等、小中学校におけるICT機器の導入と活用が急速に進められてきた。日本人間工学会では、子どものICT機器活用に関する人間工学を学会として検討するため、2014年2月25日に開催された第23回理事会において、小中学校等におけるICT機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会（略称は、子どものICT活用委員会）を設置し、各種情報を共有する等の活動を開始している。

ICT機器として、現時点では教室の電子黒板（IWB）や児童・生徒一人一台の情報端末等を対象として想定しており、平成26年度に本委員会が検討する要点は以下の通りである。

(1)小中学校におけるICT活用の人間工学上の課題整理

(2)ICT機器の使用環境と使い方に関する人間工学上の要求事項

(3)子どもが使うICT機器に関する国際標準を提案する可能性とシナリオ等

2-11. IEA 担当

{担当：藤田 祐志、河合 隆史}

(1)IEA担当（財務担当副会長）業務を遂行する。

(2)リニューアルされたIEAウェブサイトの運用を支援する

(3)その他必要なこと

2-12. 役員選出に関する検討委員会

{委員長：酒井 一博、副委員長：堀江良典}

前期「学会組織検討委員会」において理事の任期を2期までに制限することで学会役員人事の刷新を図ったところであるが、現在の選挙制度による役員選出方法には、なお問題点があるとの声がある。そうした学会員からの声を受け止めた理事長からの諮問によって、本委員会が新設された。

- (1) 理事の任期を2期までに制限したことにより、4年後に一斉に理事のメンバーが入れ替わり、活動の連続性が途切れる心配があることへの対応策の検討
- (2) 現行の選挙制度によって長らく役員を選出を行なってきたが、学会員の意見を広く聴取し、かつ他学会の役員選出方法なども参考に、学会活動の活性化につながる役員選出方法の多面的な検討によって、現行選挙制度の問題点の整理と、その解決策を取りまとめる。

2-13. 第55回大会（学会設立50周年記念大会）担当

{担当：川野 常夫}

【開催日】2014年6月5日（木）、6日（金）

【大会会場】神戸コンベンションセンター・神戸国際会議場（神戸市中央区港島中町6-9-1）

【懇親会場】神戸花鳥園（神戸市中央区港島南町7-1-9）

- (1) 学会設立50周年記念特別シンポジウム2件（日本人間工学会50周年準備委員会企画，海外招待講演含む）
- (2) 特別講演1件（大会企画）
- (3) 一般企画シンポジウム12件（内1件は大会共催）
- (4) 一般講演149件（内ポスター発表29件）
- (5) 学・協会等から協賛（予定50団体）
- (6) 50周年祝典予定
- (7) 大会案内はホームページ（<http://jes2014.jp/>）を活用して行う。

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎}

(1) 会議

- 1) 支部役員会 平成26年7月中旬（予定）
 - ・平成25年度 支部事業報告
 - ・平成25年度 決算報告並びに監査報告
 - ・平成26年度 予算案
 - ・平成26年度 支部事業計画案
 - ・平成26年度 総会について
 - ・平成27年度 支部総会並びに大会について
 - ・その他

(2) 平成26年度支部総会並びに大会

大会長：佐藤 克之（北翔大学）

日時：平成26年11月（予定）

場所：北翔大学（予定）

1) 支部総会議題

- ・平成25年度支部事業報告

- ・平成25年度決算報告並びに監査報告
- ・平成26年度予算案
- ・平成26年度支部事業計画案
- ・平成27年度北海道支部大会開催について

3-2. 東北支部

{支部長：本多 薫}

(1) 支部役員会

平成26年5月中旬開催（予定）

議事：平成25年度支部活動方針の策定

支部総会議案および資料作成

他、必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

1) 日時：平成26年5月下旬開催（予定）

2) 場所：未定

3) 議事：平成25年度事業報告および決算報告

平成26年度事業計画案および事業予算案、など。

(3) 支部研究会

年3回程程度の開催を予定。支部内の複数地域での開催を通じ活動の活性化を目指す。

(4) その他

研究者と実務家の意見交換、連携支援を積極的に進める計画である。

3-3. 関東支部

{支部長：阿久津 正大}

(1) 第44回関東支部大会・第20回卒業研究発表会

・開催日：平成26年12月6日(土)～7日(日)

・会場：早稲田大学 早稲田キャンパス

・大会長：加藤麻樹先生

・特別講演、企画セッション、一般講演、卒業研究発表会など

(2) 支部委員会 年2回開催予定

開催日：平成26年6月予定 会場：東京都内を予定

平成26年12月6日(土) 会場：早稲田大学 早稲田キャンパス

通信支部委員会を必要に応じて開催

(3) 支部総会

開催日：平成26年12月6日(土) 会場：早稲田大学 早稲田キャンパス

(4) 見学会

開催日：平成27年3月に実施予定

(5) その他

・企業・研究機関交流、講演会などを開催予定

・ニューズレターの発行

・支部HPの整備を推進 など

3-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真}

- (1) 平成26年度一般社団法人日本人間工学会東海支部総会開催
 - ・開催日時：平成26年5月31日(土)
 - ・場所：名城大学名駅サテライトキャンパス
- (2) 講演会の開催
 - ・開催日時：平成26年5月31日(土)
 - ・場所：名城大学名駅サテライトキャンパス
 - ・演題：「三現（現地、現物、現認）による行動観察での商品企画検討について」
 - ・演者：アイシン精機株式会社知的財産部部長 佐藤廣幸 氏
- (3) 支部役員会
 - ・年2回から3回開催予定
- (4) 日本人間工学会東海支部2014年研究大会の開催
 - ・開催日：平成26年11月1日(土)
 - ・開催場所：愛知工業大学（愛知県豊田市八草町）
 - ・大会長：小林正（愛知工業大学教授）

3-5. 関西支部

{支部長：川野 常夫}

- (1) 企画・行事等
 - 1) 全国大会
 - 開催日：平成26年6月5日(木)、6日(金)
 - 会 場：神戸国際会議場
 - 大会長：川野常夫先生
 - 2) 見学会 平成26年10月頃
 - 3) 支部大会（中国・四国支部と合同開催）
 - 開催日：平成26年12月13日(土)
 - 会 場：岡山県立大学
 - 大会長：西山修二先生、前田節雄先生
 - 4) 講演会等 平成27年3月頃（支部総会と併催）
- (2) 会議・総会等
 - 1) 第1回企画幹事会 平成26年6月頃
 - 2) 第1回評議員会役員会合同会議 平成26年12月頃
 - 3) 評議員選挙 平成26年12月～平成27年1月
 - 4) 第2回企画幹事会 平成27年1月頃
 - 5) 選挙管理委員会 平成27年2月頃
 - 6) 第2回評議員会役員会合同会議 平成27年3月頃（総会と併催）
 - 7) 支部総会 平成27年3月頃
 - 8) 優秀発表賞授賞式（支部総会時）

3-6. 中国・四国支部

{支部長：岡 久雄}

- (1) 支部理事会開催
 - 第1回：2014年12月13日、場所：岡山県立大学（予定）

第2回：2015年3月中旬～下旬，場所：岡山大学大学院自然科学研究科

(2) 支部総会開催

2014年12月13日，場所：岡山県立大学（予定）

(3) 支部大会開催

第47回日本人間工学会中国・四国支部大会（関西支部との合同開催）

2014年12月13日，大会長：中国・四国支部 西山修二先生（岡山県立大学），関西支部 前田節雄先生

場所：岡山県立大学（予定）

(4) 支部講演会開催

2014年12月13日

(5) 支部表彰の実施

2015年3月

(6) 支部主催・共催の研究会の実施

随時

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長：和田 親宗}

(1) 活動計画

1) 第35回支部代議員会

・開催日：平成26年10月18日（土）あるいは19日（日）

・会 場：熊本市近郊（熊本県）

2) 第35回支部総会

・開催日：平成26年10月18日（土）あるいは19日（日）

・会 場：熊本市近郊（熊本県）

3) 第35回支部大会

・開催日：平成26年10月18日（土）～19日（日）

・会 場：熊本市近郊（熊本県）

・大会長：清田公保（熊本工業高等専門学校）

・共催：電子情報通信学会第75回福祉情報工学研究会

(2) その他

4. 研究部会活動

4-1. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

〈H22.4.1～5年以内〉

(1) 活動目的

安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題点を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。

(2) 活動内容

1) 研究会を3回程度東京で開催する。

2) 首都圏以外の地域でも2回程度研究会を開催する。

3) 幹事は鳥居塚（日大）・中西（慶應義塾大）・吉村（海技研）。安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力する。

4-2. 3D 人間工学研究部会

{部会長：河合 隆史}

〈H22. 6. 1～5 年以内〉

(1) 活動目的

近年の立体(3D)映画の世界的な定着に伴い、実際の利活用を想定した知見へのニーズが高まっている。しかしながら、3D の人間工学的な側面、例えば視聴に伴う疲労をはじめ、長時間・長期間の利活用による影響や、年齢層といったユーザの属性との関連などには、依然として未知な点が多い。そこで本研究部会では、ユーザの観点による 3D 研究の情報共有や、関連する多様な分野の研究者や実務者との交流・討議などを通して、その成果を学会員および広く社会へ還元することを目的として、平成 22 年度より活動を推進している。

(2) 手段・方法・期待される成果

平成 25 年度に引き続き、セミナーやシンポジウムを開催し、当該分野の最新の知見を共有する場を形成する。平成 25 年度は、3D コンテンツの分析や機能性に着目したテーマ設定を行う。具体的には、日本人間工学会第 55 回大会において、企画シンポジウム「3D エルゴノミクスの新たなアプローチ」の実施を予定しており、また同年秋には国際 3D 協会 日本部会などの関連団体と連携したセミナーの開催を予定している。さらに、ウェブサイトを紹介した情報の発信により、3D の利活用の促進やイノベーションの創出に貢献していく。

4-3. 医療安全研究部会

{部会長：土屋 文人}

〈H24. 4. 1～5 年以内〉

(1) 活動テーマ

我が国では医療安全に関してはこの十数年の間、行政、医療機関、企業においてそれぞれ懸命に取り組みが行われたことにより、当初は他産業に比して安全文化が醸成されていないといった批判もあったが、現時点においては他産業に劣らない状況になってきたといえる。その意味で、第一段階の医療安全を図るための対策等は終了し、医療の世界が極めて厳しい労働環境下で実施されていることにより発生する事故防止にどのように取り組んでいくのか、すなわち第二段階に入っていると考えられる。

また、国の医療制度も 2025 年をめざして、従来の病院完結型から地域完結型へとその態様を変えようとしている。すなわち従来の医療機関を中心とした対応から在宅中心へと変化することとなることから、今後は在宅における医療安全をいかに図るのかの検討も必要になると思われる。

このような状況の下、医療安全部会としては、従来の対応に加え、今年度より少しずつ在宅医療までを視野に入れて活動を行うこととする。

(2) 手段・方法

1) 医薬品関係

取り違え事故防止等の医療安全の観点から医療用医薬品について PTP シート等の調剤包装単位までバーコードを印刷することが義務づけられている(平成 27 年 7 月出荷分以降)。これらは現在医療機関においてほとんど利用されていないが、今後利活用が進展すると思われることから、日本病院薬剤師会等とも共同で、製薬企業を対象とした講習会を開催することを計画している。

2) 医療機器関係

医薬品に対して遅れが目立つ医療機器の添付文書等の情報提供資料に関する人間工学研究の支援の方策について検討を行うとともに、可能であれば医療機器関係企業への講習会等の開催を行いたい。

3) 研究成果をまとめた CD 等の作成

人間工学会をはじめとして海外の関連学会等で発表された資料を製本したり CD を作成することで研究内容の普及を図る。

(3) 期待される成果

医薬品企業における人間工学の認知度は二極化の傾向にある。前述のように、医療用医薬品全てに対してバ

ーコード表示が義務づけられたことから、製薬企業は従来の工程の見直しが求められていることから、後発医薬品メーカーを含めた形で、人間工学的視点の重要性の啓発活動を行うことにより、医薬品の「使用の安全」向上が期待される。

また、在宅医療で使用される医療機器を含めた形での医療安全の検討を始めることにより、基礎データを確保することが可能となり、将来の利活用が期待できる。

4-4. 衣服人間工学部会

{部会長：永富 彰子}

〈H24. 4. 1～5 年以内〉

(1) 研究テーマ

平成 24 年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動を開始した。地球規模での温暖化、資源の枯渇などの環境問題、節電対策が問題視されている。平成 26 年度も、これらに鑑み、衣服の分野から着装のあり方、衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方などについて環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。また教育の場だけではなく、アパレル業界についても、勉強会や見学会を通して現状を把握し、両者の共通的活動を見出していく。

(2) 例会の開催 年 3 回程度開催予定。

(3) 期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学的な最新の研究などの情報収集や勉強会を行い、その情報をまとめることによって、アパレル産業における衣服設計生産の現場での環境問題への取り組みなどに、普及することが期待される。

4-5. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

〈H24. 4. 1～5年以内〉

(1) 活動テーマ

触覚インタラクションに関する国内外の研究者のコラボレーションを促進し、具体的なプロジェクトを立ち上げやすいよう、環境を整備する。

(2) 活動計画

- 1) HCI International 2014 においてオーガナイズドセッションを行い、海外の研究者との研究交流を目指す。
- 2) PPCOE (Pan-Pacific Conference on Ergonomics) においてオーガナイズドセッションを企画する。また、台湾の触覚インタラクションの研究グループとの交流を図る。
- 3) 2015 年 3 月に研究会を開き、関連の研究者による特別講演を開催する。
- 4) 学会誌に人間工学における触覚インタラクションの研究動向と称して総説論文を発表する。

4-6. 航空人間工学部会

{部会長：田中 敬司}

〈H25. 4. 1～5 年以内〉

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は「安全運航をサポートする新技術」をテーマとし、航空事故事例から得た人間特性及びマンマシンインタフェースに関わる問題、次世代の航空機等における事故防止技術の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 研究例会の開催

日時：平成26年6月20日(金) 10:00-17:00

場所：国立オリンピック青少年記念センター、センター棟 101号室

【予定講演】として

- 1) 地上における乱気流検知手法の効果について
- 2) 航空生理訓練および訓練装置の最近の動向について
- 3) Electronic Flight Bag (EFB)について
- 4) 新明和工業 US2 について

2) 施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みを活用する。本年度は、より質の高い内容を掲載し充実を図る。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

(3) 期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学および諸外国をも含めた多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-7. アーゴデザイン部会

{部会長：上田 義弘}

〈H25. 4. 1~5年以内〉

(1) 活動テーマ

「HCD+SCD を実践するためのアーゴデザイン手法を考える」

平成26年度はSCDのための手法やプロセス構築に向けた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたHCDとの関係を整理し、アーゴデザインを実践するためのHCD+SCDの方法論を探索していく。また、日本人間工学会編として出版した「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」の改訂作業にも着手する。

(2) 手段・方法

1) SCD-WG(ワーキンググループ)及びUD-WGの活動強化

SCD-WGは、部会活動のテーマである「HCD+SCD」検討を本格化させ、新たな方法論構築に向け、手法やプロセスを明確にする。UD-WGは一部内容や掲載事例が古くなった「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」の改訂作業に着手する。

2) ビジョン提案型デザイン手法の啓蒙・普及活動の実施

「ビジョン提案型デザイン手法」について、部会として講習会やSIGミーティングを開催して手法の啓蒙と普及を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

一昨年度に設置した学生会員制度により、学生会員が増加している。これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3) 期待される効果

SCDに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となるデザイン方法論(手法やプロセス)を提供することができる。「ビジョン提案型デザイン手法」の

啓蒙・普及により、産業界に貢献できる。

(4)活動予定

- 4月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)
- 6月 大学間交流イベント開催、幹事会、SCD-WG セッション
- 8月 SCDセミナー、SCD-WGセッション
- 9月 コンセプト事例発表会、幹事会
- 10月 見学会、幹事会、SCD-WG セッション
- 11月 部会幹事の選挙及び次期幹事候補の選出
- 12月 関東支部大会シンポジウム開催
関西支部大会シンポジウム開催、幹事会、SCD-WG セッション
- 1月 幹事会
- 2月 SCD-WG セッション
- 3月 合宿研究会、総会、幹事会

4-8. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：宇賀神 博}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1)テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成を図る。

(2)手段・方法

感性情報処理と官能評価の基盤である人間の感覚、知覚、感情、認知等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品等の開発成果について、先端的、独創的な研究を紹介する講演会や若手研究者を主体とした研究会、また関連の研究・開発施設の見学会などを数回企画、実施する。それらを通して研究者どうしの情報交換や交流を図るとともに若手研究者の研究意欲を喚起し、有益で具体的なアウトプットの創出を支援する。

(3)期待される成果

感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することにより、とくに若手研究者の裾野の拡大や諸研究のいっそうの活性化が期待できる。また研究成果の実用化に伴うさまざまな困難を共有して議論し、相互に支援する機会を通じて、人間工学のいっそうの発展に資することが期待できる。さらに、人間工学の実践における人間理解の拡大、深度化にもつながるものと考えられる。

4-9. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1)テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な職場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を打ち出すとともに、看護実践・教育現場にフィードバックする。

(2)手段・方法

1) 第22回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成26年9月5日(金)(予定)に摂南大学 板倉勲子教授が主催し、第22回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。

2) 日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

3) 日本人間工学会第55回大会に参加するよう呼びかける。

4) 看護人間工学研究誌第15巻を発行(平成27年3月)し、部会員に送付する。

5) 看護人間工学部会のホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

(3)期待される成果

1) 第22回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

2) 日本人間工学会第55回大会への発表、参加人数を増やす。

3) 看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。

4) 部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

4-10. 海事人間工学研究部会

{部会長: 吉村 健志}

<H25. 4. 1~5年以内>

(1)テーマ

人に関する幅広い領域での技術調査と海事人間工学研究への応用

(2)手段・方法

1)企画セッションの提案

平成26年6月、神戸で開催される日本人間工学会第55回大会にて、「海難0“ゼロ”を目指して~人間工学の取り組み」をテーマとしたシンポジウムを企画、開催する。予定される演題と講演者は下記の通りである。

- ・CPCを用いた衝突海難の数値化 竹本孝弘(東京海洋大学)
- ・漁業における自主改善活動の試み 久宗周二(高崎経済大学)
- ・練習船実習によるライフスキル変化の検討 太子のぞみ(神戸大学)。

2)研究会・見学会の開催

平成26年12月、東京で研究会・見学会を開催する。東京港での訪船見学を予定している。

3)幹事会の開催

研究部会の円滑な運営を図るため、2回以上の幹事会を開催する。

4)協賛

- ・7th International Conference on Emerging Trends in Engineering & Technology (ICETET-14)
- ・Special Session: IFMIP, World Automation Congress 2014

(3)期待される成果

海事関連の研究を幅広く紹介することにより、研究部会員の相互交流を図り、最新情報を共有する。また、東京港での訪船見学を企画して、幅広い領域の研究者の関心を集め、他分野の研究者との活発な情報共有を図る。

4-11. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長: 新家 敦}

<H26. 2. 25~5年以内>

(1)平成26年度研究部会テーマ

ビッグデータを解析する技術は今日注目されつつあるが、人間の生活行動・作業活動等を扱う人間工学的視点による解析はまだ不十分である。

このために、多数の人間工学の研究者・実践者を擁する日本人間工学会にビッグデータを扱う専門研究部会を

設立する。本専門研究部会の活動を通じて、人間の行動等の特性を明らかにし、その知見を社会に還元していく。

(2)活動内容(手段・方法)

- 1) ビッグデータ解析についての現状調査およびその応用可能性を探る。
- 2) 特定の事例を取り上げ、ビッグデータ解析研究を行う。
- 3) 全国大会・支部大会において、ビッグデータに関するシンポジウムを開催する。
- 4) 学会誌「人間工学」への特集記事の投稿を行う。
- 5) ビッグデータ研究者に対するデータ提供手段を検討する。
- 6) ビッグデータ利用に関する倫理面の検討を行う。

(3)期待される成果

ビッグデータの解析にはどんな手法があるか、人間工学の知見を持つ研究者はどのような視点でビッグデータを活用すべきかなどを明らかにすることにより、新たな人間工学研究の普及・促進が期待できる。

人間工学的研究では、調査対象を広げるとコストがかかるという問題を抱えていた。ビッグデータを研究対象とすることで、研究領域・範囲が安価かつ飛躍的に広がることが期待される。

さらに、学会が母体となることで、複数の提供元からのビッグデータを統合管理することが可能になる。これにより、提供元が一カ所だけのビッグデータ解析では見落とししてしまうような知見も得られることが期待される。

4-12. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1)本会の目的

システム部会は、人間をシステム論的立場から研究する部会であり、毎年3月中旬に卒業研究生・修士研究生を中心に研究成果を発表している。特に卒研究生は、日本人間工学会全国大会（毎年6月開催）や支部大会開催の時期ではまだ研究成果がまとまっていない状態なので、3月中旬に開かれる本部会は、社会に巣立つ研究者の卵達にとって重要な発表の場である。本部会の発表会は「システム大会」と称し、すでに22回開催されている。2日間の開催予定で、学生や教員が他大学の学生、教員や研究者と議論ができるため学生達に好評である。

(2)活動の内容

平成25年度（第22回大会）は神奈川工科大学主催で大学セミナーハウス（八王子）にて開催した。26年度も同様に開催し、学生を初めとする若い研究者、研究者の卵に人間工学に興味をもってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。そのために、年数回の幹事会（教員、研究者にて構成）と3月中旬の第23回人間工学システム大会（早稲田大学主催予定）を計画している。

V. 第4期代議員及び役員選挙報告

(平成26年社員総会～平成28年社員総会)

【理事長 1名】

青木 和夫

【副理事長 1名】

徳田 哲男

(五十音順)

【理事 26名】

青木 和夫	阿久津 正大	石田 敏郎	榎原 毅	大久保 堯夫
大倉 元宏	大須賀 美恵子	岡 久雄	川野 常夫	小谷 賢太郎
斎藤 真	斎藤 進	酒井 一博	三林 洋介	徳田 哲男
芳賀 繁	福田 康明	堀江 良典	本多 薫	三宅 晋司
矢口 博之	横山 清子	横山 真太郎	吉武 良治	吉村 健志
和田 親宗				

【監事 2名】

赤松 幹之 鈴木 玲子

【代議員 159名】

青木 和夫	赤松 幹之	阿久津 正大	有馬 正和	飯田 健夫
飯田 裕康	井口 弘和	池浦 良淳	池上 徹	池田 誠
石田 敏郎	石原 恵子	石原 茂和	一ノ瀬 充行	泉 博之
井上 馨	上野 義雪	白井 伸之介	宇土 博	榎原 毅
大内 啓子	大久保 堯夫	大倉 元宏	大須賀 美恵子	大杉 淳
太田 壽江	大竹 哲夫	大西 範和	大箸 純也	大橋 智樹
岡 久雄	岡田 明	岡本 郁子	岡本 恵里	奥田 紫乃
小澤 幸夫	小山 秀紀	香川 スミ子	影山 有佳倫	勝浦 哲夫
加藤 隆康	河合 隆史	川野 常夫	神田 幸治	北島 洋樹
北村 正晴	北村 弥生	國澤 尚子	久保 博子	桑原 教彰
鴻巣 努	小崎 智照	小谷 賢太郎	小松原 明哲	近藤 雄二
斎藤 真	斎藤 進	西連地 利己	酒井 一博	酒井 正幸
境 薫	坂下 哲也	佐久間 航	佐々木 正人	佐々木 美奈子
佐相 邦英	佐藤 望	澤 貢	澤井 映美	三林 洋介
篠崎 彰大	篠原 一光	渋谷 雄	下村 義弘	庄司 卓郎
城内 博	白井 克佳	申 紅仙	神宮 英夫	新村 洋未
新家 敦	鈴木 玲子	鈴木 一弥	瀬尾 尚聡	外山 みどり
高橋 信	竹内 晴彦	竹ノ内 敏孝	田島 一美	田中 勇治
田宮 高信	津久井 一平	辻 敏夫	土屋 和夫	土屋 敏夫
露木 章史	寺内 睦博	徳田 哲男	富田 明美	鳥居塚 崇
中迫 勝	中西 美和	西 修二	西川 一男	西山 勝夫
新田 収	農沢 隆秀	芳賀 繁	萩原 啓	長谷川 徹也
馬場 宏一	久本 誠一	福住 伸一	福田 康明	福本 正勝
藤家 馨	藤田 悦則	堀内 邦雄	堀江 良典	本多 薫
前田 享史	牧下 寛	増田 美恵子	松岡 敏生	松ヶ迫 剛
松田 文子	松波 晴人	松原 行宏	松元 俊	三上 功生
水野 基樹	水野 有希	三戸 秀樹	三宅 晋司	向井 希宏
村井 康二	村木 里志	村田 厚生	村山 陵子	茂木 伸之
森本 一成	矢口 博之	安河内 義明	八藤後 猛	柳堀 朗子
山口 俊憲	山本 まどか	横井 元治	横井 郁子	横森 求
横山 清子	横山 真太郎	吉川 徹	吉澤 昌純	吉武 良治
吉村 健志	蓮花 一己	和田 親宗	渡邊 裕	

以上

一般社団法人日本人間工学会 2014 年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	堀江良典、本多 薫	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	三宅晋司、大倉元宏	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	榎原 毅、松田文子	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	大須賀美恵子、榎原 毅	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	小谷賢太郎、鳥居塚崇	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	横井孝志、佐藤 洋	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	斉藤 進、大内啓子	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	芳賀 繁、首藤由紀	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	横山清子、青木和夫	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
企画担当	徳田哲男	公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等
人間工学専門家認定機構	吉武良治、福住伸一	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
小中学校等における ICT 機器活用の人間工学ガイドライン検討委員会	斉藤 進	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
IEA 担当	藤田祐志、河合隆史	IEA ウェブサイトの運営にかかわる支援
役員選出に関する検討委員会	酒井一博、堀江良典	役員の選挙方法に関する検討
第 55 回大会担当	川野常夫	2014 年 6 月 5～6 日に大会開催
第 56 回大会担当	吉武良治	2015 年 6 月 13～14 日に大会開催